一、年月日　何廳(府、縣)巡査拜命、受業生(敎習生)ヲ命セラレ月俸何圓(何級俸)給與セラル
一、年月日　敎習生(受業生)課程卒業月俸何圓(何級俸)給與何所勤務ヲ命セラル
一、年月日　何圓(何級俸)給與セラル
一、年月日　何所勤務ヲ命セラル
一、年月日　巡査部長ヲ命セラル
一、年月日　(依願)巡査ヲ免セラル
一、自年月日至年月日　何所ニ於テ何業ニ從事ス

兵役

一、年月日　徵兵トシテ何々隊ニ入營
一、年月日　上等兵ヲ命セラル(伍長、軍曹、何々)ニ任セラル
一、年月日　現役滿期(歸休ヲ命セラル)

賞罰

一、年月日　何々ニ依リ何賞ヲ受ク
一、年月日　何々ニ依リ何罰ヲ受ク

右ノ通ニ候也

年　月　日

志願人　氏　名㊞

(備考)　卒業證書及修業證書ハ中學校又ハ同等以上ノ學校ヨリ授與セラレタルモノノミナ記載スレハ可ナリ

其の二　臺灣總督府ノ部

臺灣總督府警部、監獄監吏、巡査、看守練習生志願者心得

第一條　臺灣總督府警察官同司獄官練習所ニ於テハ每年二回又ハ三回新聞紙ニ廣告シテ期限ヲ定メ練習生志願書ヲ受理シ(斯限後ハ一切受理セス)志願者ヲ練習所ニ召集シテ採用試驗ヲ行フ身元調其期ノ採用ノ間ニ合ハサル志願書ハ廢棄ス但警部監獄官吏練習生採用試驗ハ每年一回ニシテ非現職者ヨリ募集ノ際特ニ明示ス

第二條　內地ニ於ケル練習生募集ノ爲內務省臺灣課內ニ募集事務所ヲ常設ス何時ニテモ志願書類ヲ該募集事務所ニ差出スヘシ但警部又ハ監獄監吏練習生志願者ハ特ニ募集ノ廣告ヲナシタル場合ニ限ル

內地ニ於ケル巡査看守練習生採用試驗ハ每年二回又ハ三回トシ志願者ノ最寄地方ヘ試驗官出張シテ之ヲ行ヒ合格者ヲ採用シテ其地ヨリ渡臺セシム總テ志願書類ヲ受理シタル時ハ試驗前ニテモ身元取調ニ着手ス此照會往復ニ時日ヲ要スルヲ以テ成ルヘク早ク志願書類ヲ提出スルヲ要ス試驗ニ合格スルモ身元取調完結セサル者ハ次回ノ募集ニ繰入レ又ハ不採用者ニ決定セラルヽコトアルヘシ

第三條　募集事務ノ都合ニ依リ志願書履歷書ノミヲ携帶シテ試驗場ニ出願セシメ試驗合格ノ上一定ノ限內ニ正式志願書類ヲ提出セシムル事アルヘシ此場合ニ於テ期限內ニ正式書類ヲ提出セサルモノハ該試驗ヲ無効トス

第四條　試驗又ハ採用ノ爲メ召集シタル場合ニ於テ無屆出頭セサル者ハ志願ヲ拋棄シタル

モノト見做シ書類ヲ棄却ス

第五條　練習生志願者ハ左ノ各號ニ適合スルコトヲ要ス

一　身元確實ニシテ品行方正ナル者

二　年齡滿二十歲以上四十歲以下ノ者但前官前職ノ經歷アリテ其經歷アル職ニ志願シ適當ト認ムル者ハ四十五歲マテ採用スルコトアルヘシ

年齡二十歲ニ達スルモ徵兵檢査未濟又ハ檢査ヲ受ケ現役ニ召集セラルヽノ見込アル者ハ採用セス

三　姿勢容貌醜惡ナラス四肢完備シ全身諸機關ノ機能健全ナル者

四　身幹五尺以上ニシテ胸圍大約身長ノ半ニ等シク呼吸縮張ノ差一寸以上ノ者

五　普通ノ視力聽力ヲ有スル者及充分ナル發聲ニ堪ユル者

六　職務上ニ障害ヲ及ホス疾患其他傳染性疾患ナキ者

七　相當ノ資產ヲ有シ身元確實ト認ムヘキ保證人壹名アル者

八　採用試驗ニ應スル學力ヲ有スル者

第六條　左ノ各號ノ一ニ抵觸スル者ハ志願スルコトヲ得ス

一　重罪ノ刑若クハ重禁錮ノ刑ニ處セラレ又ハ同上ノ刑ニ處セラルヘキ罪ヲ犯シ單ニ監視ニ附セラレタル者及輕禁錮ノ刑ニ處セラレ滿期後滿五年ヲ經過セサル者

二　賭博犯處分規則ニ依リ懲罰ニ處セラレタル者

三　巡査看守及巡査補懲罰例又ハ文官懲戒令ニ依リ免職セラレ若クハ懲罰處分ニ依リ警察官及司獄官練習所ヨリ退所ヲ命セラレ滿二年ヲ經過セサル者

四　身分不相應ノ負債アル者又ハ家資分產又ハ破產ノ宣告ヲ受ケ復權セサル者及身代限ノ處分ヲ受ケ辨償ノ義務ヲ終ヘサル者

五　精神上闕如アル者又ハ酒癖若クハ暴行ノ癖アル者

第七條　練習生志願者ハ左ノ式ニ依リ(一)志願書(二)履歷書(三)戶籍謄本(四)誓約書ヲ取揃ヘ指定ノ場所ニ差出スヘシ若シ志願書類具備セサル者ノ願書ハ其儘廢棄トス

用紙ハ總テ美濃紙トス

(一)　志願書

本籍現住所族稱身分職業

勳位記　氏　名

年　月　日生

私儀警部(監吏)(巡査)(看守)練習生志願ニ付御試驗ノ上御採用相成度別紙履歷書誓約書戶籍謄本相添此段奉願候也

年　月　日

右　氏　名㊞

臺灣總督府警察官及司獄官練習所長　殿

(二) 履歷書

本籍現住所族稱身分職業(舊何藩士)
戶主又ハ某ノ子弟
勳位記　氏　名
年月日某地ニテ出生

年月日	任免賞罰學職業事故	官衙又ハ學校名
月日	何々	何々

右之通相違無之候也

年　月　日　　右　氏　名㊞

(三) 戶籍謄本（最近ニ戶籍吏ノ調製セシモノ）

(四) 誓約書

某儀

今般警部(監吏)(巡査)(看守)練習生ニ御採用相成候ニ付テハ左記各號ヲ堅ク遵守可致候依テ誓約如件

一　臺灣總督府警察官及司獄官練習所ノ諸規則及指揮命令ヲ誠實ニ遵守シ專心課程ヲ練習可致コト

二　平素紀律ヲ恪守シ行狀ヲ愼ミ廉耻ヲ重ンシ品性ノ修養ヲ心掛可申コト

三　練習中ハ自己ノ便宜ニ因リ退所ヲ出願セス又課程修了ノ上ハ三箇年奉職ノ誓約ヲ爲シ警察(司獄)官吏ニ就職可致コト

四　懲罰處分ニ依リ又ハ課程ヲ修了スルコト能ハスシテ退所ヲ命セラレ若クハ就職ノ後三箇年ニ滿タスシテ懲罰處分ニ依リ免職ニ相成候節ハ練習ノ爲メ支給セラレタル旅費及手當金ハ直ニ返納可致事

右確實ニ履行スルコトヲ誓フ

年　月　日

本籍
現住所

志願人　氏　名㊞

右誓約書ノ事項ハ本人ヲシテ堅ク遵守セシメ可申ノミナラス旅費並手當金返納ヲ命セラレタル場合ハ本人ト連帶責任ヲ以テ返納可致候

本籍
現住所　職業

保證人　氏　名㊞

第八條　警部、監獄監吏練習生ノ採用試驗ハ中學校ノ學科及程度ニ依リ之ヲ行フ今其學科目ヲ示セハ左ノ如シ

一　漢　文　白文訓點講讀
二　歷　史　日本及東洋西洋
三　地　理　歷史ニ同シ
四　數　學　四則比例、分數、小數、代數ノ類
五　作　文　記事論說
六　法　律　憲法、行政法、刑法、刑事訴訟法大意

巡査、看守練習生ノ試驗ハ左ノ科目ニ依ルヘシ

一　普通國文ノ講讀釋義
二　普通往復文、筆跡
三　算　術　四則應用
四　本邦地理、歷史ノ大要
五　刑　法　刑事訴訟法ノ釋義

第九條　臺灣總督府警部、警部補、監獄監吏ニ任用セラル、資格ヲ有スル者ハ試驗ヲ要セスシテ之ヲ警部、監獄監吏練習生ニ採用スルコトアルヘシ

（明治三十一年八月勅令第百九十三號臺灣總督府判任職員任用方明治四十年六月勅令第二百五十一號臺灣總督府警部警部補特別任用令參看）

第十條　左ノ各號ノ一ニ該當スルモノハ試驗ヲ要セス體格檢査ノミニテ巡査、看守練習生ニ採用スルコトアルヘシ但時宜ニ依リ一部ノ試驗ヲ行フコトアルヘシ

一　前條ニ依リ警部、監獄監吏練習生ニ採用スルコトヲ得ル者
二　滿一年以上判任文官又ハ巡査若クハ看守ノ職ニ在リ退職後滿五年以內ノ者及巡査看守練習生ノ科程ヲ終了シ退職後滿二年以內ノ者
三　巡査又ハ看守ノ經歷アリテ精勤證書ヲ有スル者
四　陸海軍現役滿期ノ下士以上又ハ下士適任證書ヲ有スル者
五　現役滿期後滿二ヶ年ヲ經過セサル陸軍上等兵又ハ現役滿期後五ヶ年ヲ經過セサル憲兵上等兵ニシテ聯隊區司令官又ハ所屬聯隊長ヨリ巡査看守ニ適スルノ證明アル者

前項警察又ハ監獄ノ經歷ニ因ル者ハ各其經歷アル職ニ志願スル場合ニ限ル尙第四號ニ該當スル者ニシテ聯隊區司令官又ハ所屬隊長ヨリ巡査看守ニ適スルノ證明アル者及第五號ニ該當スル者ニハ體格檢査ノ前ニ於テ假練習生ヲ命スルコトアルヘシ假練習生ニハ檢査場ニ出頭ノ旅費ヲ給ス

第十一條　誓約書式ニ記載セル練習生ノ手當金及旅費ヲ完納スヘキ場合トハ左ノ如シ

（練習生手當金及旅費支給規則第九條）

練習生ニシテ懲罰處分ヲ受ケ又ハ規程ノ練習ヲ受クルモ課程ヲ修了スル能ハスシテ退所シタルトキハ從來支給セル月手當金及採用旅費ノ全部又ハ幾分ヲ本人若クハ保證人ヨリ一時ニ返納スヘシ就職後三ヶ年ニ滿タスシテ退職シタルトキ亦同シ

第十二條　合格シタル志願者身元調結了シタルトキハ採否ヲ決定シ採用者ハ最寄地方ニ召集シテ練習生ニ採用シ旅費ヲ支給シ渡臺セシム

第十三條　總テ練習生ノ渡臺旅費ハ採用地ヨリ里數ニ應シ左表ノ金額ヲ支給ス

區分	汽車賃 一哩ニ付	汽船賃 一海里ニ付	車馬賃 一里ニ付
內地 臺灣	二錢	三錢	十錢

第十條末項ニ依リ假練習生ヲ命シタル者ニハ其居住地ノ郡市役所々在地ヨリ體格檢查地迄里數ニ應シ左表ノ旅費ヲ支給ス

滊車賃 一哩ニ付	船賃 一海里ニ付	車馬賃 一里ニ付
一錢五厘	二錢	五錢

第二章　練習生採用後ノ待遇

第十四條　練習期間ハ警部、監獄監吏練習生ハ四十週巡査、看守練習生ハ二十週トス但巡查、看守練習生ニシテ左記各號ニ該當スルモノハ練習期間ニ拘ラス必要ニ應シ出向ヲ命シ巡查又ハ看守ノ職ニ就カシムルモノトス

一　判任官タルノ資格ヲ有スル者

二　警察官及司獄官練習所巡査、看守練習生ノ課程ヲ修了シタルモノニシテ退職後二年以內ノ者

三　本島ニ於テ滿一年以上警察官吏又ハ司獄官吏ノ職ニ在リ退職後二年以內ノ者

四　本島又ハ內地若クハ滿韓地方ニ於テ警察官吏又ハ司獄官吏ノ職ニ在リテ精勤證書ヲ有シ退職後五年以內ノ者

五　內地又ハ滿韓地方ニ於テ滿三年以上警察官吏又ハ司獄官吏ノ職ニ在リ退職後二年以內ノ者

六　滿一年以上本島ニ在勤シタル憲兵下士又ハ上等兵ニシテ現役滿期後二年以內ノ者

七　練習中臨時試驗ヲ行ヒ成績優等ナルモノ

第十五條　練習中ノ月手當金、警部、監獄監吏練習生ハ十二圓巡查、看守練習生ハ八圓ヲ給シ其他食糧及醫療費ヲ官給シ被服屬具及寢具ヲ貸與シ短靴及麻脚袢ハ代金渡トス但醫療費ハ場合ニ依リ其幾部ヲ辨償セシムルコトアリ操練又ハ劍術柔術等ニ堪能ナル者ニハ助手ヲ命シ月手當金參圓以內ヲ加給シ尚其他ノ優遇ヲ與フルモノトス

採用旅費及月手當金ハ現官現職ノ警部、監獄監吏練習生ニ給與セス

第三章　巡査看守就職後ノ待遇

第十六條　練習所ヲ出テ巡査又ハ看守ニ就職スルトキハ俸給其他ノ給與ハ左ノ如シ

一　俸給ハ初任月俸十二圓乃至十五圓ニシテ最高二十圓ニ至ル

二　月手當ハ二十圓以內ノ規則ニシテ普通巡査、看守ハ十一圓以上トシ勤續年數ニ從ヒ累年加算シテ二十圓ニ至ル蕃界勤務巡査ハ初任ヨリ十四圓以上ヲ給ス

特ニ辭令ヲ交附シ年數ニ拘ラス高額ノ月手當ヲ給スルコトアリ

三　巡査ハ日當月額九圓以內ヲ給スル規程ニシテ實際ハ平地勤務月額三圓蕃界勤務ノ者ニハ五圓乃至九圓トス

四　刑事通譯、劍術、柔術其他特別ノ技能アル者ニハ一ケ月二十圓以內ノ特別手當ヲ給ス

特ニ土語ハ最モ必要ナルヲ以テ毎日相當時間教師ヲ聘キ講習セシメ巡査ハ通譯兼掌者銓衡規程ニ依リ毎年一回以上試驗委員地方ヲ巡回シテ土語ニ習熟シタル者ヲ試驗シ土語通譯兼掌ヲ命シ前項ノ手當ヲ給スルモノトス

五　巡査看守ニハ被服及宿舍ヲ給與シ武器ハ貸與スルモノトス

六　巡査看守ハ任用ノ爲メ出向ヲ命セラレ又ハ職務ヲ以テ旅行スルトキハ左表ノ旅費ヲ受ク但シ召集旅費ハ日當及宿泊料ヲ支給セス

	滊車賃 一里ニ付	滊船賃 一海里ニ付	車馬賃 一里ニ付	宿泊料 一夜ニ付	日當 一日ニ付	食卓料 一日ニ付
內地	三錢	四錢	十錢	五十錢	三十錢	五十錢
臺灣	七錢	七錢	三十錢	一圓	五十錢	五十錢

第十七條　巡査、看守一年以上奉職シ品行方正實務成績良好ナルモノハ毎年八月學術ヲ試驗シ現職ノ儘練習所ノ警部、監獄監吏練習生トシテ入所セシメ一年間練習ヲ經テ警部、警部補又ハ監獄監吏ニ任用ス（每期定員六十六名現職者ハ俸給手當ヲ受ル外食糧ハ練習所ヨリ給與ス警部、監獄吏練習生ノ課程修了シタルモノハ普通文官ノ資格ヲ得ルモノトス）

第十八條　巡査、看守ハ奉職三ケ年ニ滿タスシテ一身ノ事故ニヨリ任意辭職ヲ願ハサルノ誓約ヲ爲スヘキモノトス

第十九條　巡査看守皆勤スルトキハ慰勞ノ爲休暇ヲ與ヘラルヘシ其日數左ノ如シ

一、一ケ年皆勤者　　三十日間　　二、六ケ月皆勤者十日間

前二項ノ外三ケ年以上皆勤ノ者ニハ三週間以內ノ特別休暇ヲ與ヘラルヽコトアルヘシ

第二十條　巡査、看守滿三年以上勤續シ精勤證書ヲ有シ現ニ其職ヲ奉スル者ハ實務ノ成績ヲ考査シ及學術ヲ試驗シ警部、警部補、監獄監吏ニ任用ス

第二十一條　巡査、看守誓約年限後退職シ三十日以內ニ臺灣ヲ出發歸鄉スル者ニハ旅費ヲ

給ス奉職中死亡シタルトキハ歸郷旅費ニ相當スル金額ヲ遺族ニ支給ス

第二十二條　巡査、看守ハ巡査、看守退隱料及遺族扶助料法並ニ巡査、看守療治料給助料及弔祭料給與令ノ恩典ヲ受ク

第四章　渡臺心得

第二十三條　練習生ニ採用ノ通知ヲ受ケタル者ハ指定ノ日時場所ニ出頭シ募集官ノ指揮ニ從ヒ渡臺スヘシ

本則及募集官ノ指揮ニ違背スル者ハ直ニ相當處分スルモノトス

第二十四條　渡臺旅行中ハ制服ヲ貸與セサルモ尙各自服裝ニ注意シ言行ヲ愼ミ官吏タルノ品格ヲ汚損セサル樣心掛クヘシ

第二十五條　乘船中ハ靜肅ヲ旨トシ決シテ飮酒醉態ヲ顯シ或ハ粗暴亂行其他總テ練習生ノ體面ヲ傷クルカ如キ所爲アル可ラス

第二十六條　渡航中ノ寄港地ニハ募集官ノ特ニ許可シタル場合ノ外上陸スルコトヲ得ス

第二十七條　衣類ノ入用ハ略內地ト同樣ナリ就中單衣肌着袴下ノ類ハ多キヲ便トス

練習中ノ短靴及脚絆竝ニ巡査看守ノ靴、長靴ハ代金渡ナルヲ以テ內地ヨリ用意スルヲ便ナリトス寢具ハ蚊帳毛布ヲ準備スルヲ便宜トス携帶荷物ハ一二個ノ行李又ハ革鞄ノ類ニ格納シ堅牢ナル木札ヲ附スヘシ

第四門　教習に關する規則

其の一　道廳府縣ノ部

甲　巡査教習概則（三十年七月內務省訓令十五號）

第一條　初テ採用シタル巡査ニハ三箇月以上必要ナル學科及實務ヲ教習スヘシ但警察官タリシ經歷ヲ有スル者及學術ノ素養アル者ニ對シテハ教育ノ期間ヲ短縮シ又ハ教習ノ全部若クハ一部ヲ省略スルコトヲ得

第二條　教習ハ巡査教習所ニ於テ之ヲ行フヘシ但實務教習ハ警察署ニ於テ先任巡査ノ部伍ニ加ヘテ之ヲ行フコトヲ得

第三條　警部長ハ時々巡査教習所ニ臨ミ教習ノ方法ヲ監督シ且教習中ノ巡査ニ對シテ訓授スヘシ

第四條　教習ノ成績ハ教習期限ノ終末ニ於テ試驗スヘシ

第五條　教習ヲ受ケタル巡査ハ教習成績ノ試驗ニ合格スルニアラサレハ實務ニ服セシムルコトヲ得ス但臨時警戒ヲ要スルニ當リ巡監ノ人員ニ不足ヲ告クルトキハ實務ヲ補助セシムルコトヲ得

第六條　教習ヲ卒リタル巡査ハ一定ノ期間警察署詰警察分署詰勤務ニ服セシメタル後ニア

ラサレハ駐在所詰ト爲スコトヲ得ス

第七條　本則施行ノ爲必要ナル條項ハ廳府縣長官之ヲ定メ内務大臣ニ報告スヘシ

第八條　明治十九年内務省訓令第一二四號ハ本則施行ノ日ヨリ廢止ス

乙　看守敎習規則（三十一年十一月内務省訓令三十號）

第一條　新ニ採用シタル看守ハ二箇月以上必要ナル學科及實務ヲ敎習スヘシ但看守以上ノ監獄官タリシ經歷ヲ有スル者及學術ノ素養アル者ニ對シテハ敎習ノ期間ヲ短縮シ又ハ敎習ノ一部若クハ全部ヲ省畧スルコトヲ得

第二條　看守敎習ハ看守敎習所ニ於テ之ヲ行フヘシ但實務敎習ハ先任看守ノ部伍ニ加ヘテ之ヲ行フコトヲ得

第三條　看守敎習所ニハ所長一人ヲ置キ看守長ヲ以テ之ニ充ツ敎官ハ二人以上トシ看守長ノ内ヲ以テ之ニ充ツ

第四條　典獄ハ時々看守敎習所ニ臨ミ敎習ノ方法ヲ監督シ且敎習中ノ看守ニ對シテ訓授スヘシ

第五條　看守敎習科目ハ概ネ左ノ如シ

一　監獄法及監獄法施行規則
一　看守及監獄傭人分掌例
一　刑法及刑事訴訟法ノ大要
一　官吏服務規律ノ大要
一　監獄ニ關スル諸法規ノ大要
一　戒護檢束ノ心得
一　在監人所遇ノ心得
一　在監人行狀勘査ノ心得
一　作業ニ關スル心得
一　監獄衞生ニ關スル事項並ニ患者取扱方心得
一　記牒及諸報告ノ心得
一　姿勢禮式服裝其他規律ニ關スル心得
一　實習（體操、戒具使用法、消防演習、擊劍、柔術、記帳、報告、搜檢、人相）

第六條　敎習ノ成績ハ便宜期間ヲ別テ時々之ヲ試驗シ仍ホ敎習終了ノ際ニ於テ卒業試驗ヲ行フヘシ

第七條　敎習ヲ受ケタル看守ハ卒業試驗ニ合格シタル後ニアラサレハ本務ニ服セシムルコトヲ得ス

其の二　臺灣總督府の部

警察官及司獄官練習所規則（四十年十一月府令一〇〇號）

第一條　本所ノ目的ハ警察官及司獄官ニ各職務上ノ必要ナル實務ヲ敎練スルヲ主旨トシ兼テ警務獄務ニ關係スル學理ヲ修習セシムルモノトス

第二條　本所ノ練習生ハ採用試驗ニ合格シタル警察官吏司獄官吏及其現官現職ニアラサル

者ノ二種ヨリ成ル又練習生ノ定員ハ二種相合シテ三百五十名トス但交代ノ際ハ臨時定員ヲ増加スルコトヲ得

採用試驗ニ關スル規則ハ別ニ之ヲ定ム

第三條　前條ノ警察官吏及司獄官吏ハ本島ニ於テ滿一年以上實務ニ從事シ身心强健素行節度アル者ヨリ召集シ現官現職ノ儘練習生ニ充ツルモノトス但其素行精勤ニ關シ地方長官ノ特ニ證明アル者ハ本條ノ勤務年限ニ依ラサルコトヲ得

第四條　本所ニ於テ教授スル課程ヲ部別シテ警察官部及司獄官部ト爲ス

前項ノ各部ヲ甲乙ノ科ニ分ツ

一　警察官部ノ甲科ハ警部、警部補練習生ノ爲ニ乙科ハ巡査練習生ノ爲ニ設置ス

一　司獄官部ノ甲科ハ監吏練習生ノ爲ニ乙科ハ看守練習生ノ爲ニ設置ス

前項ノ外臨時必要ニ應シ警察官部ニ特種科ヲ設置シ特種練習生ヲ採用スルコトアルヘシ

第五條　本所ノ課業ハ學、術ノ兩科トス

一　第六條ノ表中ニ揭載スル一號乃至八號及第七條ノ表中ニ揭載スル一號乃至七號ノ科目ハ之ヲ學科ト爲ス

二　第六條ノ表中ニ揭載スル九號乃至十二號及第七條ノ表中ニ揭載スル八號乃至十二號ハ術科トス

第六條　警察官部ノ敎課ハ左ノ如シ

警察官部學術科目表

號	甲科	毎週授業時間	號	乙科	毎週授業時間
一	憲法	一	一	警察法	四
二	警察法及行政法	五	二	服務心得	二
三	刑法	三	三	法院條例	三
四	刑事訴訟法	三	四	刑事訴訟法	三
五	民法	二	五	刑法	三
六	衛生及阿片制度	二	六	衛生及阿片警察	二
七	會計法及簿記	一	七	數學	一
八	土語	一二	八	土語	一二
九	兵式操練	五	九	兵式操練	五
一〇	射的	一	一〇	射的	一
一一	擊劍	二	一一	擊劍	三
一二	捕手	二	一二	捕手	三

計	三九	計	三九

第七條　司獄官部ノ教課ハ左ノ如シ

司獄官部學術科目表

號	甲科	每週教授時間	號	乙科	每週教授時間
一	憲法	一	一	監獄總論	二
二	[illegible]法及行政法	五	二	刑法	三
三	刑法	三	三	刑事訴訟法	三
四	刑事訴訟法	三	四	監獄法規	二
五	民法	二	五	服務心得	三
六	合計法及簿記	二	六	數學	一
七	土語	一二	七	土語	一二
八	戒具使用法	一	八	戒具使用法	一
九	捕手	二	九	捕手	三
一〇	擊劍	二	一〇	擊劍	三
一一	兵式操練	五	一一	兵式操練	五
一二	射的	一	一二	射的	一
	計	三九		計	三九

第八條　第六條及第七條ニ規定スル課程ノ外特ニ必要ナル學術ハ定員又ハ其一部ノ練習生ニ對シ課外科目トシテ隨時教授スルコトヲ得

第九條　學科ハ講演ノ法ヲ以テ之ヲ授ケ練習生ニ筆記セシム術科ハ實地ニ就テ專ラ之ヲ鍛錬ス

聽講筆記ハ隨時檢閲ニ便スルモノトス

第十條　本所ノ修業年限ハ一箇年トシ一學科ヲ以テ一學期トス學年ハ九月一日ニ始マリ六月三十日ニ終ル其教授日數ヲ四十週トス

乙科ニ在リテハ前二項ノ規定ニ拘ラスシテ學期ヲ定ム其教授日數ヲ二十週トス

警察官部特種科ニ在リテハ教授日數ハ隨時之ヲ定ム

第十一條　本所ノ試驗ハ學期ノ終リニ於テ之ヲ行フ但必要ニ依リ臨時ノ試驗ヲ爲スコトヲ得試驗ノ答案ハ筆頭又ハ口頭ニ依テ之ヲ爲ス

第十二條　試驗ノ成績ハ百點ヲ以テ最高ト定ム

試驗科目ヲ通計採點シ科目ノ數ヲ以テ積ヲ割リ最高點數ノ過半ニ達スルモノハ合格點數トシ之ニ滿タサルハ不合格トス

第十三條　學期試驗ノ各合格者ニハ證書ヲ授與ス其書式ハ左ノ如シ

證書

本所印

警部（巡查）監吏（看守）練習生　氏　名

右者本所制規ノ警察官部甲司獄官部乙科ヲ修了ス仍テ玆ニ之ヲ證ス

年　月　日

臺灣總督府警察官及司獄官練習所長氏名印

第十四條　試驗ノ成績優等ニシテ平素ノ品行方正ナル練習生ニハ前條ノ證書ニ添付シ賞狀ヲ授與シテ其德行ヲ表章ス其書式ハ左ノ如シ

賞狀

本所印

警部（巡查）監吏（看守）練習生　氏　名

右者試驗ノ成績優等ニ平素ノ品行方正ニ付玆ニ賞狀ヲ授與シ其德ヲ表章ス

年　月　日

臺灣總督府警察官及司獄官練習所長氏名印

第十五條　本所ハ特別ノ場合ヲ除ク外左ニ列記スル日ニ於テ課業ヲ休止ス

一　日曜日
二　祭節日
三　始政紀念日
四　七月一日ヨリ八月三十一日迄六十二日
五　十二月三十日ヨリ一月三日迄五日

第十六條　非常變災惡疫流行ノ際ニ於テハ課業ヲ休停スルコトヲ得
前項ノ場合ハ臺灣總督ニ事由ヲ具申スヘシ

其の三　韓國ノ部

巡査敎習ノ大要

韓國ニ於ケル巡査敎習ノ概況ヲ擧クレハ左ノ如シ

一　明治四十一年十月一日ヨリ警務局內ニ警察官練習所ヲ設ケ新任ノ日人巡査ヲ敎習生トシ及ヒ各道ヨリ撰拔召集シタル日人巡査ヲ練習生トシテ入學セシメ以テ警察官ニ必要ナル學科及ヒ實科ヲ敎授スルニ在リ而シテ其學期ハ敎習生ヲ三ケ月練習生ヲ五ケ月トシ尙ホ科目ニ依リ短期ノ練習生ヲ置クコトニ爲セリト云フ

二　各道ニ於テモ巡査敎習所ヲ設ケ新任ノ韓人巡査ヲ入學セシメ以テ警察上必要ナル學術科ヲ敎授シ修業ノ後實務ニ就カシムルコトニ爲セリト謂フ

第五門　給與及旅費、手當ニ關スル件

其の一　道廳府縣ノ部

甲　巡査給與令（三十九年九月勅令二五九號）

第一條　巡査ノ月俸ハ十二圓乃至二十圓トス但シ巡査部長タル巡査ニハ二十五圓迄ヲ給スルコトヲ得
敎習中ノ巡査ノ月俸ハ九圓乃至十一圓トス

第二條　初メテ巡査ヲ命セラルル者ノ月俸ハ十五圓以下トス
判任官以上ノ官職ニ在リタル者又ハ巡査ノ職ニ在リタル者カ巡査ヲ命セラレタル場合ニハ第一條ニ定メタル範圍內ニ於テ其ノ前俸給額以內ノ月俸ヲ給スルコトヲ得

第三條　月俸ノ增給ハ三圓ヲ超ユルコトヲ得ス
十五圓以上ノ月俸ヲ受クル巡査ニハ六箇月ヲ經過スルニ非サレハ增給スルコトヲ得ス十五圓未滿ノ月俸ヲ受クル巡査ニシテ十五圓以上ニ增給スル場合亦同シ

第四條　巡査部長タル巡査及刑事通譯其ノ他特別ノ技能ヲ有スル巡査ニハ第二條及第三條ヲ適用セス

第五條　休職巡査ニシテ陸海軍ヨリ受クル俸給又ハ給料ノ月額休職ヲ命セラレタル當時ノ月俸額ヨリ寡少ナルトキハ其ノ不足額ニ相當スル金額以內ノ休職給ヲ給スルコトヲ得

第六條　刑事通譯其ノ他特別ノ技能ヲ有スル巡査ニハ一箇月二十圓以內ノ特別手當ヲ給ス

ルコトヲ得

第七條　非番ノ日ニ於テ臨時勤務ニ服シタル巡査ニハ一日五十錢以內ノ勤務手當ヲ給スルコトヲ得

第八條　訓練中ノ巡査ニハ一箇月七圓以內ノ訓練手當ヲ給スルコトヲ得

第九條　巡査ニハ一箇月五圓以內ノ宿料ヲ給スルコトヲ得

第十條　月俸ハ新任、增俸、減俸及復職ノ場合ニ於テハ其ノ翌日ヨリ退職ノ場合ニ於テハ其ノ當日迄日割ヲ以テ給ス但シ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニハ其ノ全額ヲ給ス

一　職務上ノ傷痍又ハ疾病ニ由リ其ノ職ニ堪ヘス退職シタル者

二　廢廳ノ爲退職シタル者

三　身體若ハ精神ノ衰弱又ハ事務ノ都合ニ依リ退職ヲ命セラレタル者

四　休職ヲ命セラレタル者

五　在職中死亡シタル者

休職當月復職シタル者ニハ其ノ月ノ月俸ハ更ニ之ヲ給セス

第十一條　休職給ハ休職ノ翌月ヨリ之ヲ給ス

休職給、手當金及宿料ノ給與ニ關スル規定ハ廳府縣長官之ヲ定ム

第十二條　病氣ノ爲執務セサルコト六十日ヲ踰ユル者又ハ私事ノ故障ニ依リ執務セサルコト二十日ヲ踰ユル者ハ日割ヲ以テ月俸ノ半額ヲ減ス但シ公務ノ爲傷痍ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹リ又ハ服忌ヲ受クル者ハ此ノ限ニ在ラス

第十三條　地方ノ狀況ニ依リ內務大臣ノ認可ヲ以テ當分ノ內巡査ニ最下俸以下九圓迄ノ月俸ヲ給スルコトヲ得

附　則

第十四條　本令施行ノ際別ニ辭令ヲ受ケサル者ハ現ニ受クル月俸額及特別手當ヲ給セラルルモノトス

第十五條　巡査看守俸給令及明治二十八年勅令第百五十六號ハ之ヲ巡査ニ適用セス

乙　巡査給與品及貸與品規則（三十年十月勅令三三九號）

第一條　巡査ニ給與スヘキ品目左ノ如シ

一　帽

一　冬服　一　夏服　一　甲種外套　一　乙種外套

一　日覆　一　下襟　一　手套　一　冬肌著

一　夏肌著　一　靴下　一　長靴　一　短靴

第二條　巡査ニ貸與スヘキ品目左ノ如シ

一　帽章　一　肩章　一　劍　一　劍緒

一　劍帶　一　外套及被服ノ釦　一　外套締革　一　手貼

一　捕繩　一　呼子笛

前項ノ外乘馬ノ巡査ニハ拍車ヲ貸與ス

第三條　給與品ハ現品ヲ以テスヘシ但シ下襟手套冬肌著夏肌著靴下長靴短靴ハ代料ヲ以テ

下附スルコトヲ得

制服ノ著用ヲ要セサル特別ノ勤務ニ服スル巡査ニハ任命ノ際前項ノ規程ニ依リ給與シ其ノ後ハ總テ代料ヲ以テ下付スルコトヲ得

第四條　給與品ノ員數及使用期限ハ左ノ如シ但シ已ムヲ得サル事情アルトキハ內務大臣ノ認可ヲ得テ員數ヲ增減シ及使用期限ヲ伸縮スルコトヲ得

乘馬ノ巡査ニハ長靴二足ヲ給シ其ノ使用期限ヲ十二箇月トス但シ短靴ヲ給セス

一　帽	一箇	十二箇月	一　冬服	一組	二十四箇月
一　夏服	二組	四箇月	一　甲種外套	一著	二十四箇月
一　乙種外套	一著	二十四箇月	一　日覆	一箇	四箇月
一　下襟	四箇	四箇月	一　手套	二箇	六箇月
一　冬肌著	二組	八箇月	一　夏肌著	二組	四箇月
一　靴下	二足	一箇月	一　長靴	一足	十二箇月
一　短靴	二足	十二箇月			

本條使用期限ノ外廳府縣長官ハ保存期限ヲ定ムルコトヲ得

第五條　貸與品ハ退職休職轉職死亡ノ際之ヲ返納スヘシ使用期限ノ終ラサル給與品亦同シ但シ給與品ノ代料ヲ以テ下付シタルモノハ使用殘期ニ相當スル金額ヲ返納スヘシ

第六條　貸與品又ハ使用期限ノ終ラサル給與品ヲ毀損紛失シ代品ヲ交付スル場合ニ於テ其ノ毀損紛失過失怠惰ニ出タルモノナルトキハ辨償ノ責ニ任スヘシ

附　則

第七條　本令ハ明治三十一年四月一日ヨリ施行ス但シ本令施行ノ際既ニ給與シタル現品ニハ之ヲ適用セス

丙　警察官吏其他內國旅費概則（三十年十月內務省令二七號）

第一條　警視總監警視警部長警部ノ旅費ハ此ノ規則ニ定ムルモノノ外明治三十年勅令第三百三十三號ノ規程ニ依ル

第二條　警察署詰又ハ警察分署詰警視警部其ノ管轄內ヲ巡回スルトキハ普通ノ旅費ヲ給セス左ノ規定ニ依ル但シ特別用務ノ爲臨時出張スルトキハ此限ニアラス

一　陸路六里未滿汽車十哩未滿水路十海里未滿ノ巡廻ハ宿泊シタルトキニ限リ夜數ニ應シ警視ハ一圓警部ハ七十錢ノ宿泊料ヲ給ス

一　陸路六里以上汽車十哩以上水路十海里以上ノ巡廻ハ宿泊料ノ外尙ホ日數ニ應シ警視ハ一圓警部ハ五十錢ノ日當ヲ給ス

一　地勢上渡航ニアラサレハ至リ難キ場所ヘ巡廻スルトキハ渡航賃ノ實費ヲ支給スルコトヲ得

第三條　巡査看守雇員ノ旅費ハ甲號表ニ押丁給仕小使職工等ノ旅費ハ乙號表ニ依ル其ノ支給方ハ明治三十年勅令第三百三十三號ノ規定ニ依ル

一　巡査持區內ヲ巡廻スルトキハ普通ノ旅費ヲ給セス宿泊シタルトキニ限リ夜數ニ應シ宿泊料五十錢ヲ給ス但シ特別ノ用務ノ爲メ臨時出張スルトキハ此限ニ在ラス

一　巡査持區內ニシテ地勢上渡航ニアラサレハ至リ難キ場所ヘ巡廻スルトキハ渡航賃ノ實費ヲ支給スルコトヲ得

第四條　試補及見習其ノ他官吏ノ待遇ヲ受クルモノノ旅費ハ別ニ規定アルモノヲ除クノ外ハ其ノ待遇ニ依リ本官相當ノ額ニ依ル其ノ支給方ハ明治三十年勅令第三百三十三號ノ規程ニ依ル

一　巡査持區內ノ宿泊料ハ特ニ其ノ月額ヲ定メ支給スルコトヲ得

第五條　華族及有位帶勳者等ヲ公務ニテ旅行セシムルトキハ左ノ規定ニ依ル其ノ支給方ハ明治三十年勅令第三百三十三號ノ規程ニ依ル

一　華族及從六位以上勳六等以上ノ者ハ三等旅費其ノ他有位帶勳ノ者ハ四等旅費ヲ給ス

一　一般ノ人民ハ甲號表ニ依ル

第六條　旅費ノ定額ハ地方ノ情況ニ依リ之レヲ減少シ若クハ其ノ一部ヲ支給セサルコトヲ得

（表略ス）

丁　巡査看守退隱料及遺族扶助料法　（三十四年七月法律三八號）

第一條　巡査又ハ看守勤續十年以上ニシテ左ノ各號ノ一ニ當ルトキハ退隱料ヲ給ス

一　年齡五十歲ヲ超ヘ退職シタルトキ

二　傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ其ノ職ニ堪ヘス退職シタルトキ

三　廢官廢廳ニ依リ退職シタルトキ

四　身體若ハ精神ノ衰弱又ハ事務ノ都合ニ依リ退職ヲ命セラレタルトキ

前項ノ退隱料年額ハ退職當時ニ於ケル月俸三箇月分トシ勤續十年以上三十年ニ至ル迄一年ヲ加フル每ニ退職當時ノ月俸十分ノ一ヲ增加ス

第二條　巡査又ハ看守勤續一年以上十年未滿ニシテ第一條第一項各號ノ一ニ當ルトキハ一時金ヲ給ス但シ退隱料ヲ受クル者又ハ受クヘキ者ハ此ノ限ニ在ラス

一時金ハ退職當時ニ於ケル月俸額ノ三分ノ二ニ勤續年數ヲ乘シタル額トス

第三條　退隱料ヲ受クル者又ハ受クヘキ者再ヒ前職ニ就キ勤續一年以上ニシテ第一條第一項各號ノ一ニ當ルトキハ前後通算シテ勤續三十年ニ至ル迄後ノ勤續一年ヲ加フル每ニ後ノ退職當時ニ於ケル月俸額十分ノ一ヲ退隱料年額ニ增加ス

一時金ヲ受ケタル者又ハ受クヘキ者再ヒ前職ニ就キ第一條第一項各號ノ一ニ當ルトキハ前後通算シテ勤續十年以上ニ至ル者ニハ第一條ニ依リ退隱料ヲ給シ十年未滿ノ者ニハ第二條ニ依リ後ノ勤續年數ニ對スル一時金ヲ給ス

第四條　巡査又ハ看守職務ノ爲傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ一肢以上ノ用ヲ失ヒ又ハ之ニ準スヘキ者ト爲リ其ノ職ニ堪ヘス退職シタルトキハ退隱料ヲ給ス

前項ノ退隱料年額ハ退職當時ノ月俸三箇月分乃至六箇月分トス

第一條及第三條ニ依リ退隱料ヲ受クル者又ハ受クヘキ者本條第一項ニ當ルトキハ其ノ退隱料年額ニ退職當時ノ月俸四箇月分以內ヲ增加ス

前二項ニ依ル退隱料年額及增加金額ハ傷痍疾病ノ輕重ニ依リ之ヲ定ム

第五條　前條ノ規定ハ職務ノ爲傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ退職シタル後一年以內ニ其ノ傷

痍疾病ニ起因シ前條第一項ニ當ルニ至リタル者ニ之ヲ準用ス

第六條　巡査又ハ看守交互ニ轉職シ又ハ他ノ官職ニ轉シタルトキハ事務ノ都合ニ依リ退職ヲ命セラレタル者ト看做ス

第七條　巡査又ハ看守左ノ各號ノ一ニ當ルトキハ遺族ニ扶助料ヲ給ス

一　職務ノ爲傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ在職中死亡シタルトキ

二　勤續十年以上ニシテ在職中死亡シタルトキ

三　退隱料ヲ受ケ又ハ受クヘクシテ死亡シタルトキ

扶助料年額ハ前項第一條ノ場合ニ在リテハ第四條ニ依リ査定シタル金額ノ三分ノ二トシ第二號ノ場合ニ在リテハ第一條又ハ第三條ニ依リ査定シタル金額ノ三分ノ一トシ第三號ノ場合ニ在リテハ其ノ退隱料年額ノ三分ノ一トス但シ職務ノ爲傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ退職シタル後一年以內ニ其ノ傷痍疾病ニ起因シテ死亡シタルトキハ第四條第五條ニ依リ査定シタル金額ノ三分ノ二トス

第八條　扶助料ハ寡婦ニ給ス寡婦死亡シ又ハ扶助料ヲ受クヘカラサルトキハ子ニ給ス數子間ニ在リテハ法定家督相續ノ順位ニ依リ最先者ニ給ス最先者死亡シ若ハ扶助料ヲ受クヘカラサルトキハ順次次位者ニ轉給ス

民法第九百六十九條ニ依リ家督相續人タルコトヲ得サル者及推定家督相續人ニシテ廢除セラレタル者ニハ扶助料ヲ給セス但シ疾病其ノ他身體又ハ精神ノ狀況ニ依リ家政ヲ執ルニ堪ヘサルカ爲廢除セラレタル者ハ此ノ限ニ在ラス

養子ハ家督相續人ニ非サレハ扶助料ヲ給セス

第九條　扶助料ヲ受クヘキ寡婦及子ナキトキハ扶助料ハ直系尊屬ニ給ス

前項ノ場合ニ在リテハ先ツ父ニ給シ父死亡シ又ハ扶助料ヲ受クヘカラサルトキハ母ニ給ス母ヨリ祖父ニ祖父ヨリ祖母ニ轉給スルハ順次此ノ例ニ依ル

第十條　扶助料ヲ受クル者ナクシテ死亡シタル者ノ家ニ在ル兄弟姉妹二十歲未滿又ハ篤疾若ハ癈疾ニシテ自活スルコト能ハサルトキハ扶助料ニ相當スル金額ノ三箇年分以內ヲ一時限リ給スルコトアルヘシ

第十一條　退隱料ヲ受ケタル者又ハ受クヘキ者者左ノ各號ノ一ニ當ルトキハ之レヲ給セス

一　國籍ヲ喪失シタルトキ

二　重罪ノ刑ニ處セラレタルトキ

三　在職中ノ犯罪ニ依リ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトキ

第十二條　遺族ニシテ左ノ各號ノ一ニ當ルトキハ扶助料ヲ給セス

一　前條第一號又ハ第二號ニ當ルトキ

二　寡婦婚姻シタルトキ

三　子年齡二十歲ニ滿チタルトキ

四　尊屬ノ女婚姻シタルトキ

第十三條　子二十歲ニ滿ルモ篤疾又ハ癈疾ニシテ自活スルコト能ハス他ニ扶助料ヲ受クル

者ナキトキハ其ノ事由ノ存續スル間扶助料ノ三分ノ一ヲ給スルコトアルヘシ

第十四條　退隱料ヲ受クル者又ハ受クヘキ者左ノ各號ノ一ニ當ルトキハ其ノ間退隱料ノ支給ヲ停止ス

一　公權ヲ停止セラレタルトキ

二　六箇月以上行方不明ナルトキ

退隱料ヲ受クル者又ハ受クヘキ者再ヒ判任官待遇以上ノ官職ニ就キタル場合ニ於テハ其ノ俸給月額ニ退隱料月割額ヲ合シ退職當時ニ於ケル俸給月額ニ超過スルトキハ其ノ超過額ニ對スル退隱料ノ支給ヲ停止ス

第十五條　扶助料ヲ受クル者又ハ受クヘキ者前條第一項各號ノ一ニ當ルトキハ其ノ間扶助料ノ支給ヲ停止シ第八條第九條ノ順位ニ依リ之ヲ次位者ニ轉給ス

第十六條　退隱料及扶助料ノ年額竝一時金ノ圓位未滿ハ圓位ニ滿タシム

第十七條　巡査又ハ看守ノ勤續年數ハ就職ノ月ヨリ起算シ退職ノ月ヲ以テ終ル但シ十二箇月未滿ノ端數ハ之ヲ算入セス

休職及敎習中ノ月數ハ勤續年數ニ算入ス

第十八條　巡査又ハ看守其ノ職務ヲ以テ從軍シタルトキハ軍人恩給法ノ算則ニ照ラシテ從軍年ヲ加算ス

第十九條　本法ニ於テ寡婦、子、實屬ト稱スルハ巡査又ハ看守タリシ者死亡ノ當時ヨリ引續キ其ノ家ニ在ル者ヲ謂フ但シ父死亡後出生シタル嫡出ノ子ハ死亡當時其ノ家ニ在ル者ト看做ス

第二十條　退隱料及扶助料ノ支給、停止及廢止ハ其ノ事由ノ生シタル翌月ヨリ之ヲ行フ第五條ニ依ル退隱料ノ支給ハ事由認定ノ翌月ヨリ始マリ前條但書ニ依ル扶助料ノ支給ハ出生ノ翌月ヨリ始マル

第二十一條　退隱料、一時金及扶助料ハ之ヲ受クヘキ事由ノ生シタル日ヨリ三年以內ニ請求スルニ非サレハ之ヲ給セス

第二十二條　退隱料ハ民事訴訟法第五百七十條及第六百十八條ノ規定ニ關シテハ恩給ト看做ス

第二十三條　本法ニ依ル給與金ノ支給ニ關スル事項ヲ裁定スヘキ行政官廳ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十四條　本法ニ依ル給與金ハ巡査又ハ看守最後ノ退職又ハ死亡當時ニ於テ俸給ヲ受ケタル經濟ノ負擔トス

第二十五條　本法ニ依ル給與金ノ一部又ハ全部ヲ拒否セラレタル者其ノ拒否ヲ不當ナリトスルトキハ訴願ヲ提起スルコトヲ得違法ニシテ權利ヲ傷害セラレタリトスルトキハ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第二十六條　本法ハ陸軍監獄看守、海軍監獄看守、陸軍警守、海軍警査、貴族院守衛、衆議院守衛、女監取締及其ノ他ノ遺族ニ之ヲ適用ス

附　則

第二十七條　本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十八條　明治十五年太政官達第四十一號巡査看守給助例ハ巡査、看守、陸軍監獄看守、海軍監獄看守、海軍警査、貴族院守衛、衆議院守衛及其ノ遺族ニ之ヲ適用セス但シ巡査看守給助例ニ依リ現ニ給助ヲ受クル者又ハ既ニ受クヘキ事由ノ生シタル者又ハ事由ニ起因シテ一年以内ニ重症ニ趣キ又ハ死亡シタル者ニ對シテハ其ノ第一條乃至第七條ヲ適用スルノ外本法第三條、第十一條、第十二條、第十四條、第十五條、第二十條第一項、第二十一條、第二十三條及第二十五條ヲ準用ス

明治十五年太政官達第六十六號ハ巡査、看守ニ明治三十三年法律第三十號ハ巡査、看守、陸軍監獄看守、海軍監獄看守、陸軍警守、海軍警査、貴族院守衛、衆議院守衛、女監取締及其ノ遺族ニ之ヲ適用ス

第二十九條　陸軍會計卒ニシテ陸軍監獄看守ノ職ヲ奉シ引續キ陸軍看守卒ト爲リ尚引續キ陸軍監獄看守ト爲リタル者又ハ陸軍看守卒ヨリ陸軍監獄看守ト爲リタル者ニ付テハ前在職中ノ年月數ヲ陸軍監獄看守ノ在職年月數ニ通算ス但シ軍人恩給法ニ依リ免除恩給ヲ受ケタル者ハ此ノ限ニ在ラス

前項ニ依リ通算シタル會計卒及看守卒ノ任職年月數ハ官吏恩給法ニ依ル在官年數及軍人恩給法ニ依ル服役年數ニハ之ヲ算入セス

附　則

本法ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第二十九條ノ規定ハ明治三十四年八月一日以後本法施行以前ニ於テ退隠料、扶助料若ハ一時金ヲ受ケ又ハ受クヘキ事由ノ生シタル場合及勤續十年未滿ニシテ在職中死亡シタル者アリタル場合ニモ之ヲ適用ス

前項ノ期間内ニ於テ既ニ一時金ヲ受ケタル者又ハ遺族ニシテ前項ニ依リ退隠料又ハ扶助料ヲ受クルトキハ一時金ヲ返納セシム其ノ完納ニ至ル迄退隠料又ハ扶助料ヲ以テ返納金ニ充ツ

第二項ニ依リ退隠料、扶助料又ハ一時金ヲ請求シ得ヘキ期間ハ本法施行ノ日ヨリ之ヲ起算ス

女監取締ノ明治三十六年三月三十一日以前ニ於ケル勤續年數ハ巡査看守退隠料及遺族扶助料法ニ規定スル勤續年數ニ非サルモノト看做ス

戊　巡査看守退隠料及遺族扶助料法施行令 （三十四年七月勅令一四八號）

第一條　巡査看守退隠料及遺族扶助料法第四條第二項ノ退隠料年額及同條第三項ノ増加金額ノ等差ハ左ノ如シ

		退隠料年額	増加金額
第一	兩眼ヲ盲シ若ハ二肢以上ヲ亡シタルトキ	六箇月分	四箇月分
第二	前項ニ準スヘキ傷痍ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹リタルトキ	五箇月半分	三箇月半分
第三	一肢ヲ亡シ若ハ二肢ノ用ヲ失ヒタルトキ	五箇月分	三箇月分
第四	前項ニ準スヘキ傷痍ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹リタルトキ	四箇月半分	二箇月半分

第五　一眼ヲ盲シ若ハ一肢ノ用ヲ失ヒタルトキ　四箇月分　二箇月分
第六　前項ニ準スヘキ傷痍ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹リタルトキ　三箇月分　一箇月分

傷痍疾病ノ等差ハ文官傷痍疾病等差例ニ依ル

第二條　巡査看守退隱料及遺族扶助料法第三十三條ノ行政官廳ハ國庫ヨリ給與金ヲ支給スヘキ者ニ在リテハ內閣恩給局長、其ノ他ニ在リテハ地方長官（東京府ニ在リテハ警視總監）トス

臺灣ニ於テハ前項ノ行政官廳ハ國庫ヨリ給與金ヲ支給スヘキ者ニ在リテハ臺灣總督其ノ他ニ在リテハ知事及廳長トス

附　則

本令ハ明治三十四年八月一月ヨリ之ヲ施行ス

己　恩給局長管掌同上取扱規程　（三十四年八月閣令一號）

巡査看守退隱料及遺族扶助料法施行令ニ依リ內閣恩給局長ノ管掌ニ屬スル巡査看守退隱料及遺族扶助料取扱規程左ノ通之ヲ定ム

第一條　巡査看守退隱料及遺族扶助料法ニ依リ退隱料又ハ一時金ヲ受クヘキ者ハ退職當時ノ本屬廳ノ長官ニ請求スヘシ但シ廢官廢廳ニ當リタルトキハ其ノ事務ノ引繼ヲ受ケタル官廳ノ長官ニ請求スヘシ

第二條　前條ノ請求書ニハ左ノ書類ヲ添附スヘシ

一　在職履歷書

二　戶籍謄本

但シ一時金請求書ニハ戶籍謄本ノ添附ヲ要セス

巡査看守退隱料及遺族扶助料法第三條第一項及第四條第三項ニ依ル退隱料年額增加ノ請求書ニハ前項書類ノ外前ニ受ケタル退隱料證書ヲ添附スヘシ

第三條　職務ノ爲傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ退隱料ヲ請求スル者ハ前條ニ揭クル書類ノ外左ノ書類ヲ以テ其ノ事實ヲ證明スヘシ

一　傷痍又ハ疾病ノ職務ニ起因シタル事實ヲ認ムヘキ證據書類

二　醫師ノ診斷書

第四條　巡査看守退隱料及遺族扶助料法ニ依リ扶助料ヲ受クヘキ遺族ハ戶籍謄本及第五條乃至第十一條ノ書類ヲ添附シ住所地ノ地方長官ニ請求スヘシ

第五條　巡査看守退隱料及遺族扶助料法第七條第一項第一號又ハ第二號ニ當ル者アリタルトキハ本屬廳ヨリ死亡者ノ履歷書ヲ其ノ遺族ニ下付スヘシ同條第一項第二號末段又ハ同條第二項但書ニ當ル者ノ遺族ノ請求アルトキ亦同シ

第六條　巡査看守退隱料及遺族扶助料法第七條第一項第一號又ハ同條第二項但書ニ當ル者アリタルトキハ本屬廳ニ於テ事實ヲ查覈シ其ノ傷痍又ハ疾病ノ職務ニ起因シタル證據トナルヘキ書類及醫師ノ診察ヲ爲サシメタル場合ニ於テハ其ノ診斷書ヲ併セテ其ノ遺族ニ下付スヘシ

第七條　退隱料ヲ受ケタル後死亡シタル者ノ遺族ニシテ扶助料ヲ請求スルモノハ死亡者ノ受ケタル退隱料證書ヲ添附スヘシ

第八條　扶助料ヲ受クル者死亡シ又ハ權利消滅シタルトキ其ノ扶助料ノ轉給ヲ請求スル者ハ前者ノ扶助料證書ヲ添附スヘシ

第九條　重罪ノ刑ニ處セラレ又ハ公權ヲ停止セラレタルニ因リ扶助料ノ轉給ヲ請求スル者ハ其ノ事實ヲ證明スヘキ確定裁判ノ謄本ヲ添附スヘシ

第十條　六箇月以上行方不明トナリタルニ因リ扶助料ノ轉給ヲ請求スル者ハ其ノ事實ニ關スル市町村長ノ證明書ヲ添附スヘシ

第十一條　巡査看守退隱料及遺族扶助料法第十條又ハ第十三條ニ當リ扶助料ヲ請求スル者ハ自活スルコト能ハサル事實ニ付テハ市町村長ノ證明書、篤疾又ハ癈疾ニ付テハ醫師ノ診斷書ヲ添附スヘシ

第十二條　退隱料又ハ一時金ノ請求ヲ受ケタル各廳長官ハ査覈ノ上請求ノ理由アリト認ムルトキハ請求者ノ在職年數及退隱料年額又ハ一時金計算書ヲ作リ證據書除ヲ添ヘ內閣恩給局長ニ差出スヘシ

扶助料ノ請求ヲ受ケタル地方長官ハ査覈ノ上扶助料年額ノ計算書ヲ作リ證據書類ヲ添ヘ內閣恩給局長ニ差出スヘシ

第十三條　內閣恩給局ニ於テ退隱料、扶助料又ハ一時金ノ支給ヲ許可シタルトキハ證書ヲ作リ本人住所地ノ地方廳ヲ經テ之ヲ下付スヘシ但シ退隱料又ハ一時金ノ證書ヲ下付スルトキハ先ツ第一條ニ依リ請求ヲ爲シタル官廳ヲ經由スヘシ

前項ノ證書ヲ下付シタルトキハ內閣恩給局ハ其ノ旨ヲ支給主管省ニ通知スヘシ

第十四條　退隱料及扶助料ハ其ノ年額ヲ四分シ四月、七月、十月、一月ニ於テ其ノ前三箇月分ヲ支給ス但シ退隱料又ハ扶助料ヲ受クル者死亡シ又ハ權利ノ消滅若ハ停止ノトキ及一時支給ノ金額ハ期月ニ拘ラス之ヲ支給ス

第十五條　退隱料又ハ扶助料ヲ受クル者重罪若ハ禁錮ノ刑ニ處セラレ又ハ監視ニ付セラレタルトキハ其ノ確定裁判ノ宣告ヲ爲シタル裁判所ヨリ之ヲ支給主管省ニ通知スヘシ

第十六條　巡査看守退隱料及遺族扶助料法第十四條第二項ニ當ル者アルトキハ其ノ任用シタル官廳ヨリ支給主管省ニ通知スヘシ爾後其ノ俸給額ニ異動アルトキ及解任シタルトキ亦同シ但シ該通知書ニハ支給廳名、俸給額及其ノ支給ヲ始ムル日（任解ノトキハ支給ヲ終リタル日）ヲ付記スヘシ

第十七條　支給主管省ニ於テ前二條ノ通知ヲ受ケタルトキハ之ヲ內閣恩給局及支給廳ニ通知スヘシ

第十八條　退隱料又ハ扶助料ヲ受クル者死亡シ若ハ權利消滅シタルトキハ其ノ遺族又ハ本人ヨリ之ヲ支給廳ニ屆出ヘシ

第十九條　支給廳ニ於テ退隱料又ハ扶助料ノ支給ヲ廢止シ若ハ停止シタルトキハ其ノ事由ヲ具シ之ヲ支給主管省及內閣恩給局ニ通知スヘシ但シ支給主管省ヨリ權利ノ消滅若ハ停止ニ關シ通知ヲ受ケタルモノハ此ノ限ニ在ラス

第二十條　退隱料又ハ扶助料證書ヲ亡失シタル者ハ住所地ノ地方廳ニ屆出ヘシ

地方廳ニ於テ前項ノ屆出ヲ受ケタルトキハ其ノ事實ヲ調査シ亡失ノ事由ヲ具シテ內閣恩

給局ニ申出ヘシ此ノ場合ニ於テ恩給局ハ證書ノ謄本ヲ作リ地方廳ヲ經テ本人ニ下付スヘシ

前項證書ノ謄本ハ本證書ト同一ノ效力アルモノトス

第二十一條　退隱料又ハ扶助料ヲ受クル者氏名ヲ改メタルトキハ第十三條ノ證書ヲ添ヘ住所地ノ地方廳ニ屆出ヘシ

地方廳ハ證書ノ裏面ニ其ノ事實ヲ記載シ長官署名捺印ノ上本人ニ下付シ其ノ旨ヲ內閣恩給局及支給主管省ニ通知スヘシ

附　則

第二十二條　巡査看守給助例ニ依リ退職給助、傷痍給助又ハ死亡給助ヲ受クル者若ハ受クヘキ者ハ其ノ給與ノ種類ニ從ヒ退隱料、一時金又ハ扶助料ヲ受クル者若ハ受クヘキ者ニ準シ第十四條ヲ除クノ外本令ノ規定ヲ準用ス

第二十三條　市制町村制ヲ施行セサル地方ニ於テハ本令ニ於テ市町村長ノ爲スヘキ職務ハ戶長又ハ之ニ準スヘキ者ニ於テ之ヲ行フヘシ

第二十四條　本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

庚　地方長官主管ニ屬スル同上取扱規程（三十四年七月內務省令二三號）

巡査看守退隱料及遺族扶助料法施行令ニ依リ地方長官主管ニ屬スル退隱料及遺族扶助料取扱規程左ノ通之ヲ定ム

第一條　巡査看守退隱料及遺族扶助料法ニ依リ退隱料又ハ一時金ヲ受クヘキ者ハ退職當時ノ本屬廳府縣長官ニ請求スヘシ

第二條　前條ノ請求書ニハ左ノ書類ヲ添附スヘシ

一　在職履歷書

二　戶籍謄本

但シ一時金請求書ニハ戶籍謄本ノ添附ヲ要セス

巡査看守退隱料及遺族扶助料法第三條第一項及第四條第三項ニ依ル退隱料年額增加ノ請求書ニハ前項書類ノ外前ニ受ケタル退隱料證書ヲ添附スヘシ

第三條　職務ノ爲メ傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ退隱料ヲ請求スル者ハ前條ニ揭クル書類ノ外左ノ書類ヲ以テ其ノ事實ヲ證明スヘシ

一　傷痍又ハ疾病ノ職務ニ起因シタル事實ヲ認ムヘキ證據書類

二　醫師ノ診斷書

第四條　巡査看守退隱料及遺族扶助料法ニ依リ扶助料ヲ受クヘキ遺族ハ戶籍謄本及第五條乃至第九條ノ書類ヲ添附シ巡査タリシ者ノ最終ノ本屬廳府縣長官ニ請求スヘシ

第五條　退隱料ヲ受ケタル後死亡シタル者ノ遺族ニシテ扶助料ヲ請求スルモノハ死者ノ受ケタル退隱料證書ヲ添附スヘシ

第六條　扶助料ヲ受クル者死亡シ又ハ權利消滅シタルトキ其ノ扶助料ノ轉給ヲ請求スル者ハ前者ノ扶助料證書ヲ添附スヘシ

第七條　重罪ノ刑ニ處セラレ又ハ公權ヲ停止セラレタルニ因リ扶助料ノ轉給ヲ請求スル者

ハ其ノ事實ヲ證明スヘキ確定裁判ノ謄本ヲ添附スヘシ

第八條　六箇月以上行方不明トナリタルニ因リ扶助料ノ轉給ヲ請求スル者ハ其ノ事實ニ關スル市町村長ノ證明書ヲ添附スヘシ

第九條　巡査看守退隱料及遺族扶助料法第十條若ハ第十三條ニ當リ扶助料ヲ請求スル者ハ自活スルコト能ハサル事實ニ付テハ市町村長ノ證明書、篤疾廢疾ニ付テハ醫師ノ診斷書ヲ添附スヘシ

第十條　廳府縣長官ニ於テ退隱料扶助料若ハ一時金ノ支給ヲ許可シタルトキハ證書ヲ作リ之ヲ本人ニ下付スヘシ

第十一條　退隱料及扶助料ハ其ノ年額ヲ四分シ四月、七月、十月、一月ニ於テ其ノ前三箇月分ヲ支給ス但シ退隱料又ハ扶助料ヲ受クル者死亡シ又ハ權利消滅シ若ハ停止ノトキ及一時支給ノ金額ハ期月ニ拘ラス之ヲ支給ス

第十二條　退隱料又ハ扶助料ヲ受クル者死亡シ若ハ權利消滅シタルトキハ其ノ遺族又ハ本人ヨリ之ヲ給與ヲ行フ廳府縣長官ニ届出ヘシ

第十三條　退隱料又ハ扶助料證書ヲ亡失シタル者ハ給與ヲ行フ廳府縣長官ニ届出ヘシ

前項ノ届出ヲ受ケクル廳府縣長官ハ證書ノ謄本ヲ作リ之ヲ本人ニ下付スヘシ

前項證書ノ謄本ハ本證書ト同一ノ効力アルモノトス

第十四條　退隱料又ハ扶助料ヲ受クル者氏名ヲ改メタルトキハ第十條ノ證書ヲ添ヘ給與ヲ行フ廳府縣長官ニ届出ヘシ

前項ノ届出ヲ受ケタル廳府縣長官ハ證書ノ裏面ニ其ノ事實ヲ記載シ長官署名捺印ノ上之ヲ本人ニ下付スヘシ

附　則

第十五條　本規程ニ於テ廳府縣長官ニ屬スル事務ハ廢官廢廳ノ場合ニ在テハ事務ノ引繼ヲ受ケタル官廳ニ移ルモノトス

第十六條　巡査看守給助例ニ依リ退職給助、傷痍給助又ハ死亡給助ヲ受クル者若ハ受クヘキ者ハ其ノ給與ノ種類ニ從ヒ退隱料一時金又ハ扶助料ヲ受クル者若ハ受クヘキ者ニ準シ第十一條ヲ除クノ外本令ノ規程ヲ準用ス

第十七條　市制町村制ヲ施行セサル地方ニ於テハ本令ニ於テ市町村長ノ爲スヘキ職務ハ戸長又ハ之ニ準スヘキ者ニ於テ之ヲ行フ

第十八條　本令ハ明治三十四年八月一日ヨリ之ヲ施行ス

辛　巡査看守療治料、給助料及弔祭料給與令（三十四年七月勅令一四九號）

第一條　巡査又ハ看守職務ノ爲傷痍ヲ受ケ又ハ職務ニ依リ健康ニ有害ナル感動ヲ受クルヲ顧ミルコト能ハスシテ勤務ニ從事シ爲ニ疾病ニ罹リ本屬長官ニ於テ治療ヲ要スルモノト認ムルトキハ其治療中療治料ヲ給ス

療治料ハ一日二圓以內トス但シ治療費一日平均二圓ヲ超過シタルトキハ適當ト認ムヘキ實費ヲ精算シテ之ヲ追給スルコトアルヘシ

第二條　療治料ヲ受クル者左ノ各號ノ一ニ當ルトキハ給助料ヲ給ス

一 治療二十日以上ニ渉リ引續在職シ治療ヲ要セサルニ至リタルトキ
二 療治料給與ニ係ル傷痍疾病ニ因リ職ニ堪ヘス退職治療ヲ要セサルニ至リタルトキ

前項ノ給助料ハ第一號ニ當ル者ニ在リテハ治療ヲ要セサルニ至リタル當時ノ月俸一個月分トシ第二號ニ當ル者ニ在リテハ退職當時ノ月俸三箇月分トス

療治料ヲ受クル者治療二十日以上ニ渉ラスト雖引續在職シ本屬長官必要ト認ムルトキハ治療ヲ要セサルニ至リタル當時ノ月俸一箇月分以內ノ範圍ニ於テ給助料ヲ給スルコトアルヘシ但シ治療七日ニ滿タサルトキハ此ノ限ニ在ラス

第三條 巡査又ハ看守在職中死亡シタルトキハ左ノ順位ニ從ヒ其ノ家ニ在ル親族ニ弔祭料ヲ給ス但シ同順位間ニ在リテハ其ノ親等ノ最モ近キ者ヲ先ニシ同親等間ニ在リテハ男ハ女ニ先チ同性間ニ在リテハ長ハ幼ニ先ツ

一 配偶者
二 直系卑屬
三 直系尊屬
四 兄弟姉妹

前項親族ニシテ公權剝奪若ハ停止中ニ係リ又ハ行方不明ナルトキハ弔祭料ヲ給スル限ニ在ラス但シ次位者アルトキハ之ヲ轉給ス

弔祭料ハ死亡當時ニ於ケル月俸一箇月分トシ勤續一年以上九年ニ至ル迄一年ヲ加フル毎ニ死亡當時ニ於ケル月俸額三分二ヲ增加ス但シ職務ノ爲傷痍ヲ受ケ又ハ職務ニ依リ健康ニ有害ナル感動ヲ受クルヲ顧ミルコト能ハスシテ勤務ニ從事シ爲ニ疾病ニ罹リ因テ死亡シタル者ニハ更ニ死亡當時ニ於ケル月俸六箇月分ヲ增加ス

勤續年數ノ計算ニ關シテハ巡査看守退隱料及遺族扶助料法ノ例ニ依ル

第四條 前條ニ依リ弔祭料ヲ受クヘキ者ナキトキハ死亡者ノ爲葬祭ヲ行フヘキ者ニ前條ニ定ムル金額ノ三分一以內ヲ給スルコトアルヘシ

第五條 休職者ハ在職者ニ準シ休職ヲ命セラレタル當時ノ月俸額ニ依リ本令ニ依ル給與ヲ行フ

第六條 本令ニ依ル給與ハ之ヲ行フヘキ事由ノ生シタル當時ニ於テ俸給ヲ受ケタル經濟ノ負擔トス但シ休職者ニ在リテハ休職ヲ命セラレタル際俸給ヲ受ケタル經濟ノ負擔トス

第七條 本令ハ陸軍監獄看守、海軍監獄看守、陸軍警守、海軍警査、貴族院守衛、衆議院守衛及女監取締ニ之ヲ適用ス

附 則

本令ハ明治三十四年八月一日ヨリ之ヲ施行ス

壬 巡査看守給助例 (十五年七月太政官達第四十一號)

巡査看守給助例別紙ノ通相定メ候條各地方ニ於テ給助金額ヲ定メ內務卿ノ認可ヲ經テ施行可致此旨相達候事

但實施ノ府縣ハ八年一月第三號達並九年九月第八拾號達別表中免職歸國費ヘ相廢候儀ト相心得ヘシ

(別紙)

巡査看守給助例

第一條　給助ハ退職給助傷痍給助死亡給助療治料祭祀料ノ五種トス

第二條　給助ヲ與ル者ハ左ノ如シ

一　退職給助　勤續（巡査ヨリ看守ニ看守ヨリ巡査ニ轉スルモ總テ勤續トス）滿五年以上ニシテ退職スル者ニハ一時之ヲ給シ滿十年以上ニシテ退職スル者ニハ終身之ヲ給ス

二　傷痍給助　職務ノ爲メ負傷スル者ニ終身之ヲ給ス

三　死亡給助　職務ノ爲メ重傷死ニ至ル者及ヒ負傷後其傷痍ニ原因シテ死亡スル者又ハ職務上傳染病ニ罹リ死亡スル者ノ遺族ニ之ヲ給ス

四　療治料　職務ノ爲メ負傷シ若クハ傳染病ニ罹ル者ニ之ヲ給ス

五　祭祀料　奉職中死亡スル者ニ之ヲ給ス

第三條　退職給助ノ額

一　勤續滿五年ノ者ハ一時金貳拾圓ヨリ少カラス參拾圓ヨリ多カラサル額ヲ給ス滿六年以上九年迄ハ一年每ニ金三圓ヨリ少カラス五圓ヨリ多カラサル額ヲ增給ス

二　勤續十年ノ者ハ年金貳拾五圓ヨリ少カラス三拾圓ヨリ多カラサル額ヲ給ス滿十一年以上ハ一年每ニ金五拾錢ヨリ少カラス壹圓ヨリ多カラサル額ヲ增給ス

第四條　傷痍給助ノ額

一　一等傷（終身不具トナリ自用ヲ辨スル能ハサル者）ハ年金三拾圓ヨリ少カラス四拾圓ヨリ多カラサル額ヲ給ス

二　二等傷（終身不具トナリ自用ヲ辨シ得ル者）ハ年金貳拾圓ヨリ少カラス三拾圓ヨリ多カラサル額ヲ給ス

第五條　死亡給助ノ額

一　寡婦又ハ相續ノ孤兒アル時ハ年金三拾圓ヨリ少カラス五拾圓ヨリ多カラサル額ヲ給ス寡婦再嫁シ孤兒二十歳ニ至レハ廢止ス

但寡婦アレハ孤兒ニ給セス

二　寡婦又ハ孤兒ノ給助ヲ受ル者ナク祖父母父母又ハ二十歳未滿ノ兄弟姉妹ニシテ死者ニ依リ從來生計ヲ爲セシ者アルトキハ一時金五拾圓ヨリ少カラス百圓ヨリ多カラサル額ヲ給ス

三　相續者タル孤兒滿二十歳ニ至ルモ癈篤疾ナルトキハ年金ヲ廢止スルニ際シ一時金五拾圓ヨリ少カラス百圓ヨリ多カラサル額ヲ給ス

第六條　療治料ハ傷痍又ハ病症ノ輕重ニ依リ其適度ヲ量リ之ヲ給ス

第七條　祭祀料

一　奉職一年未滿ニシテ死亡スル者ハ一時金拾圓ヨリ少カラス拾五圓ヨリ多カラサル額ヲ給ス滿一年以上一年每ニ金三圓ヨリ少カラス五圓ヨリ多カラサル額ヲ增給ス

二　職務ノ爲メ死亡スル者ヘハ前項ノ外一時金五拾圓ヨリ少カラス百圓ヨリ多カラサル額ヲ給ス

第八條　左ノ各項ニ該ル者ハ給助ヲ受ルヲ得ス

一　公權剝奪セラレタル者

二　懲罰ニヨリ免職セラレタル者

第九條　左ノ各項ニ該ル者ハ其時間給助ヲ停止ス

一　俸給ヲ受ルノ官職ニ就キタル者
二　公權ヲ停止セラレタル者
三　失踪シタル者
四　許可ヲ得スシテ外國ニ出テ一年以上歸朝セサル者

其の二　臺灣總督府の部

甲　巡査看守ノ給與ニ關スル件（四十年五月勅令二〇九號）

臺灣總督府巡査ノ給與ニ關シテハ第一條第二項及第七條乃至第九條ヲ除クノ外巡査給與令ニ臺灣總督府看守ノ給與ニ關シテハ第一條第三項第八條第九條ヲ除クノ外奏任及判任待遇監獄職員給與令看守ニ關スル規定ニ依ル

但巡査給與令中廳府縣長官ニ關スル職權ハ臺灣總督之ヲ行フ

臺灣總督府巡査及看守ニハ前項ノ外月額二十圓以內ノ手當ヲ支給ス其支給方法ハ臺灣總督之ヲ定ム

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十一年勅令第百十七號及同年勅令第百二十號ハ之ヲ廢止ス

本令施行ノ際別ニ辭令ヲ受ケサル者ハ現ニ受クル月俸額及特別手當ヲ給セラルヽモノトス

乙　練習生ノ俸給ニ關スル件（三十二年十月勅令四〇一號）

臺灣總督府警察官及司獄官練習所練習生ニシテ縣、廳ノ巡査看守タル者ニハ明治三十二年勅令第四百十九號巡査俸給第五條ノ規定ニ拘ハラス各其本俸ヲ支給シ臺灣總督府巡査看守タル者ニハ俸給ヲ支給セス其給與ハ明治三十一年勅令第百十八號ヲ準用ス

丙　練習生ノ手當金及旅費支給方ノ件（三十一年六月勅令一一八號）

臺灣總督府警察官及司獄官練習所練習生ニハ手當金及旅費ヲ支給スルコトヲ得其ノ支給規則ハ臺灣總督之ヲ定ム

丁　練習生手當金及旅費支給規則（三十一年七月府訓令一六七號）（四十一年八月府訓令一三八號改正）

第一條　練習生ノ手當金及旅費ハ此規則ニ依リ支給ス但明治三十二年勅令第四百號ニ依リ置キタル巡査看守ニアラサル現官現職者ニハ第四條ノ食料ノミヲ支給ス

第二條　前條ノ手當金ハ月手當、食料及醫療費ノ三種トス

第三條　月手當ハ甲科ノ練習生ニ在テハ一箇月金十二圓トシ乙科ノ練習生ニ在テハ一箇月金八圓トス

實務練習ノ爲メ特ニ外勤ヲ命シタル者ニハ一箇月金十二圓ヲ兵式操練其他術科ノ助敎ヲ命シタル者ニハ一箇月金參圓以內ヲ加給スルコトヲ得

第四條　食料ハ臺灣總督府警察官及司獄官練習所長豫算定額內ニ於テ適宜其額ヲ定メ現品又ハ現金ヲ以テ之ヲ支給ス

第五條　醫療費ハ官給ス但事宜ニ依リ其幾分ヲ辨償セシムルコトヲ得

第六條　實務練習ノ爲メニ加給ヲ受クル者又ハ實務練習ノ爲メ加給ヲ受ケ尙兵式操練其他ノ術科助敎ノ爲メニ加給ヲ受クル者ニハ食料及醫療費ヲ支給セス

第七條　練習生ニハ左表ニ依リ入所旅費ヲ支給ス

區分	滊車賃一哩ニ付	船賃一海里ニ付	車馬賃一里ニ付
內地本島	二錢	三錢	十錢

第七條ノ二　練習生採用地ヨリ出發旅行中不可抗力ノ爲滯在シタルトキハ宿泊料トシテ一泊ニ付金五十錢ヲ支給ス但シ宿泊料請求ノ場合ニハ輸送官ノ證明書ヲ添附スヘシ

第七條ノ三　練習生ニ修學旅行ヲ命シタルトキハ左表ノ旅費ヲ支給ス

區分	滊車賃	船賃	宿泊料一泊ニ付	日當一日ニ付
本島	三等實費額	汽船ハ三等實費額他ノ船舶ハ其ノ實費額	五十錢	三十錢

第八條　臺灣總督府警察官及司獄官練習所練習生採用試驗規則第六條ノ假練習生ニハ單ニ左表ノ旅費ヲ支給ス

滊車賃一哩ニ付	船賃一海里ニ付	車馬賃一里ニ付
一錢五厘	二錢	五錢

第九條　練習生ニシテ懲戒ノ處分ヲ受ケ又ハ定期ノ練習ヲ受クルモ課程ヲ修了シ能ハスシテ退所シタルトキハ從來支給セル月手當及採用旅費ノ全部又ハ幾分ヲ本人若クハ保證人ヨリ一時ニ返納スヘシ就職後三箇年ニ滿タスシテ退職シタルトキ亦同シ

第十條　此規則施行ニ關スル細則ハ臺灣總督府警察官及司獄官練習所長之ヲ定メ臺灣總督ノ認可ヲ受クヘシ

成　練習生手當金及旅費支給規則施行細則

第一條　月手當ハ採用ノ日ヨリ出發ヲ命シタル當日迄支給ス正當ノ事由アリテ退所ノ許可ヲ受ケタル者又ハ課程修了ノ目途ナク退所ヲ命シタル者ニハ發令ノ日迄支給ス官ノ都合ニ依リ退所ヲ命シタルモノ又ハ死亡者ノ遺族ニハ其月ノ全額ヲ支給ス

實務練習又ハ兵式操練其他術科其他術科助教者ノ加給ハ發令ノ翌日ヨリ加算ス

懲戒ノ處分ヲ受ケ又ハ定期ノ練習ヲ受タルモ科程ヲ修了スル能ハスシテ退所ヲ命シタル者ニハ未拂ノ支給金額總テ支給セス

軍籍ニ在ル者召集セラレ又ハ轉地療養看護歸省ノ場合ハ出發ノ當日ヨリ歸省ノ前日迄入院療養者ハ入院ノ當日ヨリ退院當日迄總テ給與セス

第二條　兵式操練其他術科ノ助教ヲ命シタル者ノ加給月手當ハ左ノ等級ニ依リ給與ス

一級　金參圓　　二級　金貳圓五拾錢　　三級　金貳圓
四級　金壹圓五拾錢　　五級　金壹圓

第三條　食料ハ現品ヲ以テ給ス但旅行者並ニ外泊者ニハ給與セス

第四條　練習生疾病傷痍ノ醫療ハ左ノ區分ニ依ル

一　課業ニ起因シタル者及所外入院療養ヲ命シタル者ノ醫療費ハ全部官費トス

二　課業ニ起因セサル疾病傷痍者ニシテ所外通院醫療ヲ命シタル者ニハ實費ノ半額ヲ支給ス

三　自已ノ過失若クハ不攝生ニ起因シタル疾病傷痍者ノ醫療費轉地療養費及自己ノ便宜ニ依ル所外療養者ニハ其起因ニ係ハラス各其費用ノ全部ヲ自辨トス

四　前三項ノ外所內醫療費ハ其半額ヲ辨償セシム

第五條　出向退所又ハ死亡シタル者ノ外練習生ノ支給金ハ翌月三日トス但シ休日ニ當ルトキハ繰下ケトシ十二月ニ限リ其月分ヲ二十八日ニ支給ス

第六條　旅費ハ採用ノ地ヨリ起算支給ス假練習主ニハ其居住地ノ郡役所々在地ヨリ體格檢査地迄支給ス

己　臺灣總督府旅費規則（三十年十二月府訓令一六四號）

第一條　臺灣總督府文官判任以上ノ者臺灣內旅行ノ場合ハ第一號表ニ依リ旅費ヲ支給ス

第二條　囑託員雇員ノ內地及臺灣內旅行ノ場合ニハ月俸又ハ月手當百圓以上ヲ受クル者ヘ泰任官二十圓以上ヲ受クル者ハ判任官ノ旅費ヲ支給ス

第三條　囑託員雇員ノ日給者若クハ二十圓未滿ノ月俸又ハ月手當ヲ受クル者及巡査看守ノ內地及臺灣內旅行ノ場合ニハ第二號表ニ依リ旅費ヲ支給ス

第四條　巡査補傭員押丁ノ內地及臺灣內旅行ノ場合ハ第三號表ノ旅費ヲ支給ス但巡査補ノ採用旅費及諸職工等其業ニ從事シ賃錢ヲ受クル日ハ日當及宿泊料ヲ支給セス

第五條　土人ノ囑託員雇員及傭員ノ內地及臺灣內旅行ノ場合ニハ月俸又ハ月手當二十五圓以上ヲ受クル者ハ第二號表其二十五圓未滿ヲ受クル者ハ第二號表其二十五圓未滿ヲ受クル者及傭員ハ第三號表ニ依リ旅費ヲ支給ス

第六條　囑託員雇員及巡査看守巡査補ノ甲廳ヨリ乙廳ニ轉スル場合ハ內國旅費規則第十七條ノ例ニ依ル

第七條　測量巡視踏査等ノ現場ヲ巡回スル者及平常旅行ヲ要スル者ニ對シテハ豫メ臺灣總督ノ認可ヲ經テ日額ヲ定メ旅費ヲ減スルコトヲ得

前項巡回旅行ト普通旅行ト同日內ニ重リタルトキハ普通旅費ヲ支給ス

第十一條　內地ヨリ臺灣ニ旅行スル者ハ臺灣最初ノ着船地マテヲ內地旅行トシ臺灣ヨリ內地ニ旅行スル者ハ臺灣最後ノ乘船地マテヲ臺灣旅行トシテ各其旅費ヲ支給ス但內地ヨリ臺灣ヘ着船當日ハ臺灣旅費ノ日當臺灣ヨリ內地ヘ乘船當日ハ內國旅費ノ日當ヲ支給ス

第十三條　臺灣總督府職員判任以上ノ者勤續滿二年以上ニシテ廢官退官（自已ノ便宜及懲戒ニ依ル退官ヲ除ク）若クハ休職トナリ三十日以內ニ臺灣ヲ出發シ歸鄉スルトキハ內國旅費規則ノ定額ニ依リ前官若クハ本官相當ノ旅費ヲ支給ス

第十四條　既ニ歸鄉旅費ノ支給ヲ受ケ三十日以內ニ出發歸鄉セサル者ハ之ヲ返納セシム

第十五條　在職中死亡シタルトキハ其勤續年月數ニ拘ラス第十三條ニ準シ歸鄉旅費ニ相當スル金額ヲ遺族ニ支給ス

第十六條　內地ニ旅行中廢官若クハ退官（自已ノ便宜及懲戒ニ依ル退官ヲ除ク）休職トナリ又ハ死亡シタルトキハ其旅行ノ公務ナルト私事ナルトヲ問ハス第十三條ノ旅費又ハ第十五條ノ支給金ノ半額ヲ

支給ス

第十七條　巡査看守ニシテ誓約期限後退職シ三十日以內ニ臺灣ヲ出發歸鄕スル者ニハ第二號表內地ノ定額ニ依リ旅費ヲ支給ス

第十七條ノ二　巡査看守ニシテ奉職中死亡シタルトキハ左ノ例ニ依リ歸鄕旅費ニ相當スル金額ヲ遺族ニ支給ス

一　本島ニ於テ死亡シタル者ナルトキハ其全額

一　內地ニ旅行中死亡シタル者ナルトキハ其半額

第十八條　歸鄕旅費及支給金ハ凡テ奉勤務地ヨリ原籍地迄ノ路程ニ應シ汽車賃船賃車馬賃ヲ支給シ日當宿泊料ヲ支給セス

第十九條　前各條ニ規程セサル事項ハ內國旅費規則ヲ適用ス

附　則

本規則ハ明治三十年十二月一日以降ノ旅行ニ適用ス

第一號表

等級		汽車賃一哩ニ付	船賃一海里ニ付	車馬賃一里ニ付	宿泊料一夜ニ付	日當一日ニ付	食卓料一日ニ付
一等	親任官	二十五錢	二十五錢	一圓十錢	四圓五十錢	二圓五十錢	一圓七十錢
二等	勅任官	二十錢	二十錢	八十錢	三圓五十錢	一圓五十錢	一圓五十錢
三等	奏任官	十五錢	十五錢	六十錢	二圓五十錢	一圓	一圓三十錢
四等	判任官	十錢	十錢	四十錢	一圓六十錢	七十錢	九十錢

第二號表

區分		汽車賃一哩ニ付	船賃一海里ニ付	車馬賃一里ニ付	宿泊料一夜ニ付	日當一日ニ付	食卓料一日ニ付
二十圓未滿ノ囑託員雇員或巡査看守	內地	三錢	四錢	十錢	五十錢	三十錢	五十錢
	臺灣	七錢	七錢	三十錢	一圓	五十錢	五十錢

第三號表

區分		汽車賃一哩ニ付	船賃一海里ニ付	車馬賃一里ニ付	宿泊料一夜ニ付	日當一日ニ付	食卓料一日ニ付
巡查補 傭員 押丁	內地	二錢	三錢	七錢	三十錢	二十錢	三十錢
	臺灣	六錢	六錢	二十錢	七十錢	三十錢	三十錢

庚　內地ノ募集地ヨリ渡臺里程表

地名 發	着	滊車	滊船	陸路	備考
東京	横濱	一八、〇哩	〇	〇	
青森	東京	四五六、九	〇	〇	
盛岡	同	三三〇、〇	〇	〇	
秋田	同	三五四、八	〇	〇	
山形縣酒田	同	二六一、五	〇	一四、三哩	福島新庄福島上野
新潟	同	二六六、六	〇	〇	
水戸	同	七三、一	〇	〇	
仙臺	同	二一七、二	〇	〇	
長野	同	一三四、八	〇	〇	
山形	同	二二三、三	〇	〇	
米澤	同	一九四、一	〇	〇	

地名 發	着	滊車	滊船	陸路	備考
福島	同	一六八、〇	〇	〇	
青森	神戸	八三三、一	〇	〇	
盛岡	同	七〇五、二	〇	〇	
秋田	同	七三〇、〇	〇	〇	
山形縣酒田	同	六三三、七	〇	一四、三	
富山	同	二四五、一	〇	〇	
福井	同	一六〇、八	〇	〇	
大阪	同	二〇、三	〇	〇	
新潟	同	六四一、八	〇	〇	
鹿兒島	長崎	二七、一	〇	二八、〇〇	陸路ニ由ル
鹿兒島	同	〇	一六三、〇哩	〇	
鹿兒島	門司	〇	三一六、〇	〇	
松山	同	四、〇	九一、〇		松山、三津濱、門司、間

高松	同	〇	一七四、〇		
宮崎	同	一四三、四	〇	四三、三〇〃	高岡、小林、加久藤、人吉、五木、八代ヲ經テ
大分	同	四九、九	〇	一四、〇三〃	別府、豊岡、佐田、宇佐ヲ經テ
鹿兒島	同	二一五、九	〇	一〇、二九〃	吉松人吉ヲ經滊車
福岡	同	四七、二	〇	〇	
佐賀	同	八〇、九	〇	〇	
熊本	同	一一一、二	〇	〇	
長崎	同	一六四、〇	〇	〇	
津山	下ノ關	二七五、五	〇	〇	岡山經過
岡山	同	二四〇、二	〇	〇	
廣島	同	一三九、五	〇	〇	
松江	同	一三九、五	〇	四八、二六〃	廣島ヲ經テ
山口	同	四三、五	〇	三、一三〃	小郡ヲ經テ

橫濱	基隆	〇	一、一三七、〇	〇	
神戸	同	〇	九九二、二	〇	
宇品	同	〇	八五六、〇	〇	
門司下ノ關	同	〇	七五二、〇	〇	
長崎	同	〇	六二八、〇	〇	
鹿兒島	同	〇	六二四、〇	〇	
津	神戸	九四、一	〇	〇	津ヨリ龜山、天王寺、大阪ヲ經テ
名古屋	同	一四一、八	〇	〇	
東京	同	三七五、二	〇	〇	
仙臺	同	五九二、四	〇	〇	
水戸	同	四四八、三	〇	〇	
靜岡	同	二五七、二	〇	〇	
長野	同	五一〇、〇	〇	〇	

山形	同	五九八、五	〇	〇	
米澤	同	三六九、三	〇	〇	
福島	同	五四三、二	〇	〇	
金澤	同	二〇八、四	〇	〇	
高知	神戸	〇	四二三、〇	〇	
高松	同	〇	六六、〇	〇	
津山	廣島	一三六、〇			岡山經過
岡山	同	一〇〇、七			
松山	宇品	四〇、〇	三五、〇	〇	松山三津濱、三津瀨宇品間
高松	同	〇	九六、〇	〇	
宮崎	長崎	一七六、六	〇	四三、二〇	高岡、小林、加久藤、人吉、五木、八代ヲ經テ
大分	同	一五四、四	〇	三一、二六	竹田、宗地、立野、經過 滊車ハ熊本鳥栖經過
佐賀	同	八三、一	〇	〇	
熊本	同	一五四、四	〇	〇	鳥栖ヲ經テ
福岡	同	一二六、八	〇	〇	
基隆	[illegible]卿	一九、三	〇	〇	

其の三　韓國の部

甲　巡査ノ給與ニ關スル規則

巡査ノ給與ニ關シテハ巡査給與令、巡査給與品及貸與品規則、巡査特別手當支給規則、巡査舍宅料支給規則等ヲ定メ明治四十一年一月ヨリ之ヲ施行セリ

右諸規則ヲ玆ニ網羅スルコトヲ省略シ唯俸給其他ノ諸手當ニ付キ次項ニ於テ其要ヲ摘示スヘシ

乙　俸給及諸手當ノ梗概

一　俸給　ハ日人巡査ハ七圓乃至十四圓、韓人巡査ハ五圓以上ナリ

二　月手當　ハ日人巡査ニ在リテハ二十三圓以上三十六圓以下トシ韓人巡査ニ在リテハ七圓(平均額)トス

三　特別月手當　ハ二圓乃至七圓トシ日韓巡査ニ共通ス、特別手當ハ通譯及ヒ刑事專務等ノ特別用務ニ從事スル者ニ限リ支給スルモノトス

四　舍宅料　ハ一ケ月五圓乃至十圓トシ土地ノ狀況ニ依リ等差ヲ設ケテ之ヲ日人巡査ノ

ミニ支給ス但シ京城其他理事廳所在地警察署ニ勤務スル者ニ限ルモノヽ如シ

五　備考　日人巡査ハ俸給及ヒ月手當ノ二給與ハ一ケ月ノ平均額三十五圓ニシテ四十年ト異ナラスト云フ但シ俸給進メハ手當金等モ加ハリ随テ收入ノ増加スルコトハ勿論ナリトス

第六門　雜件

生計費收支ノ概況

其の一　臺灣の部

一　巡査看守練習生ハ練習所内ノ官舍ニ寄宿シ賄ヲ官給サレ月手當八圓及ヒ短靴、麻脚袢（代金渡シ）ノ各支給ヲ受ケ被服、厨具並ニ寢具ヲ貸與サレ且ツ操練、擊劍、柔術ニ堪能ナル者ハ助手ヲ命セラレ月手當一圓乃至三圓ヲ加給セラルヽコト在リ左レハ練習中ト雖モ家族ヲ有スル者ハ其生計ヲ補助スルコトヲ得ヘシ

醫療費ハ官給ヲ原則トスルモ場合ニ依リ其幾部分ヲ辨償スルコトアルヘシ

二　巡査（平地勤務）看守ノ收入ハ初任最下給ニテ月收二十七圓ナルカ之ヲ細別スレハ俸給十二圓、月手當十二圓、日當月額三圓ナリトス

右ノ外臺灣語ニ成熟シ又ハ刑事專務等ノ特別技能ヲ有スル者ハ二十圓以内ノ特別月手當アリ且ツ職務ニ熟達シ及ヒ勤續年數ニ從ヒ俸給其他諸手當等漸ク二増加シ約五十圓ノ最高月收ニ達スルコト在ルヘシ但シ特別手當ハ一般ニ屬セサルモノニ付キ之ヲ省キタリ

蕃地勤務ノ巡査ハ初任最下給ニテ月收三十一圓ナルカ之ヲ細別スレハ俸給十二圓、月手當十四圓、日當月額五圓ナリ但シ特別手當ヲ除ク又最高給ハ前者ノ例ニ譲ル

三　生計費ノ支出ニ付テハ宿舍ハ官給サレ米價（臺灣米）魚菜ノ如キハ内地ニテ廉ナル地方ト比較スルコトヲ得ヘク酒、醤油及ヒ薪炭ノ類モ不廉ナルニアラス納税ハ更ニナシ然レトモ義捐ニ類スル點ニ付キ毎月約二圓以内ヲ醵出スルナラン但シ物價ニ付テハ土地ノ繁閑乃至交通ノ便否等ヨリシテ價格ニ多少ノ差異ハ免カレサルヘシ要スルニ獨身者トシテ餘リ或ル嗜好物ニ費消スルコトナク所謂身分相應ニ普通ノ生活ヲ維持スルモノトセハ毎月十三圓以内ニ於テ支出ヲ充タスコトヲ得ン又假リニ家族殊ニ妻子二人ヲ増ストセンモ僅少ノ増額ニ過キスシテ毎月少クトモ十圓位ハ貯蓄スルコトヲ得ルナラン

蕃界ハ固ヨリ不便ノ地ナリト雖モ主府ノ特過ニ依リ日用品ノ供給ニ缺クル所ナク且ツ價格モ平地ト餘リ異ナラサルカ如シ既ニ百事不便ナル丈夫レタケ平地ヨリモ經費ヲ節セラルヽカ故ニ平地勤務者ニ比シ收入ノ多キニ反シ多少支出ヲ減スルノ結果ヲ呈スト云フ他ハ推シテ知ルヘシ

其の二　韓國の部

韓國ニ於ケル日人巡査ノ收支ニ付テハ未タ見聞ニ乏シクシテ之ヲ具體的ニ盡スコト能ハサルヲ遺憾トス故ニ詳シキハ調査ヲ遂ケタル上他日ノ機會ニ譲リ茲ニハ僅ニ聞知シタル大體ヲ紹介スルコトニ止ムヘシ

韓國ハ物價カ安クナイトカ随分經費ヲ要スルトカ等ト云フ者モアルカ併シナカラ夫レハ物

ニモヨラズウシ場所ニモヨラヌウシ亦人ニモヨルデアラウカラ之レヲ以テ直ニ一般ノ標準トナヲナイコトハ謂フ迄モナキコトデアル所デ實際ハ如何ト云フニ自ラ種々ニ岐レルデアラウトハ思ハルヽケレトモ前提ノ如クデアルカラ固ヨリ確タルコトニハ云ヘナイカ兎ニ角我輩ノ所信トシテハ米價（朝鮮米）ハ頗ル廉ニシテ魚介、菜蔬、鳥肉、雞卵等ノ類モ我國ノ普通價格ヨリ優ニ二割位ハ安ク殊ニ田舍ニ赴クニ從ヒ一層低廉ナリトノコトナルカ之レニ反シ薪炭ノ如キ燃料物ハ一般ニ不廉ナリ又家賃ノ如キモ京城ヲ第一トシテ釜山、仁川等約リ繁華ノ地ハ頗ル不廉ナルコトハ我東京及ヒ大坂地方ヨリモ以上ノ所感ナキ能ハス然レトモ田舍地方ニ到ルニ從ヒ甚タ廉ナル趣ナリ蓋シ都會ノ地ハ便利ナルニ伴ヒ家賃其他賄料等ノ廉ナラサルハ獨リ韓國ノミニ限ラサルコトハ爭フヘカラサルノ事實ナリ

依之觀レハ韓國ノ都會地ニ於ケル借家料及ヒ一般的ニ薪炭費等ノ廉ナラサル點ヲ別トシ其他ノ日常ノ生活品ハ概シテ廉ナリト爲サヽルヘカラス元來人ノ慾望ハ際限ナシ之ヲ充サントシテ體裁ヨク煩悶スルト露骨ニ勞苦スルトハ蓋シ其人ノ境涯乃至性質ニ因ルナランモ勞ヤ一ツナリ宜シク勞ハ爲サヽルヘカラス而シテ假ニ人慾ノ範圍ヲ單ニ日常ノ生活ノミニ止ムルトセハ須ラク自己ノ地位ニ鑑ミ常ニ程度ヲ超ユルコトナク己レニ克テ以テ徒ニ糞ノ製造者トナル勿レ肉體ニ美服ヲ飾ランヨリモ心ニ汚衣ヲ纏フコトナキヲ要ス故ニ裸體テ生レタ昔ノ觀念ヲ以テ同國ノ產物ヲ愛食セハ家政ノ方面トシテハ職務ニ忠實ト勤續及ヒ忍耐トノ相對關係ノ圓滿ニ維持セラルヽト共ニ表裏モ正比例ノ歩調ヲ以テ漸クニ樂シキ効果ヲ告クルコトハ信シテ毫モ疑ヲ容レサル所ナリ

要スルニ何レノ地ト雖モ所謂蓄財問題ハ第一其人ノ境遇ニ胚胎スヘシ次テ短刀直入ニ物價如何ノ上ニ着眼スルハ早計ナリ宜シク順序的ニ之ニ對スル自身ノ强固ナル覺悟ヲ要ス斯クノ如クニシテ蓋シ天然ヨリ被ムル頓挫ノ損害ナクンハ得テ其目的ヲ達スルナラン故ニ更ニ曰ク貯蓄ノ成否ハ一方ニ職業ノ勉否ト他方ニ自己ニ於ケル決心ノ强弱トノ如何ニ繫カルモノナランヤ

終ニ莅ミ附言ス新殖民地ナル樺太並ニ租借地ナル關東州方面ニ於ケル景況ニ付テハ調査ノ上他日ノ機會ニ讓レリ幸ニ之ヲ諒セヨ

巡查看守受驗要書　終

明治四十二年九月十五日印刷
明治四十二年九月十八日發行

巡査看守受驗要書

定價金六拾錢

著作者 東京市牛込區牛込赤城下町七番地 山口謙次郎

發行者 東京市京橋區鎗屋町八番地 工友社

右代表者 大西林五郎 渡邊勝太郎

印刷者 東京市神田區松下町七八番地 横田五十吉

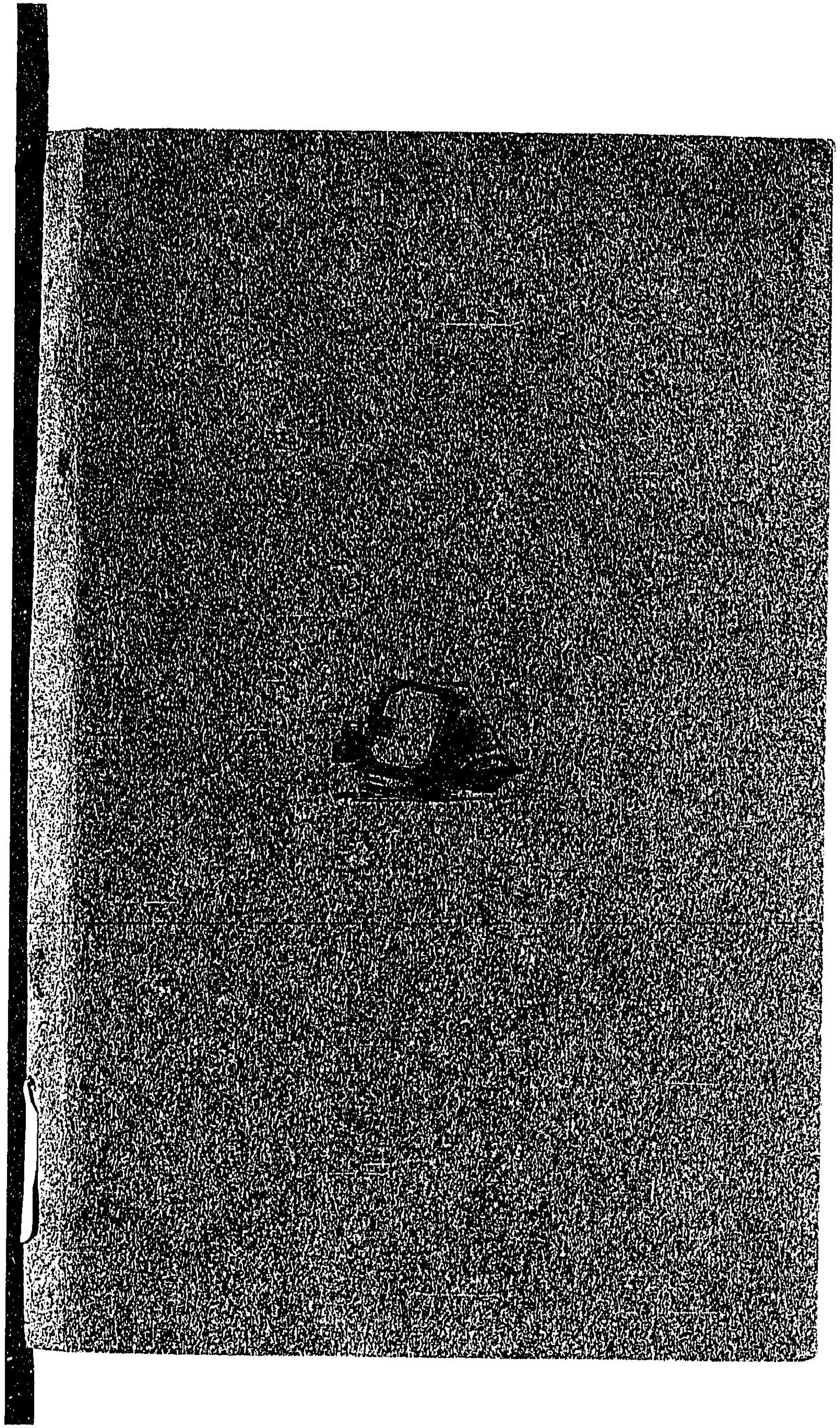
印刷所 東京市神田區松下町七八番地 横田活版所

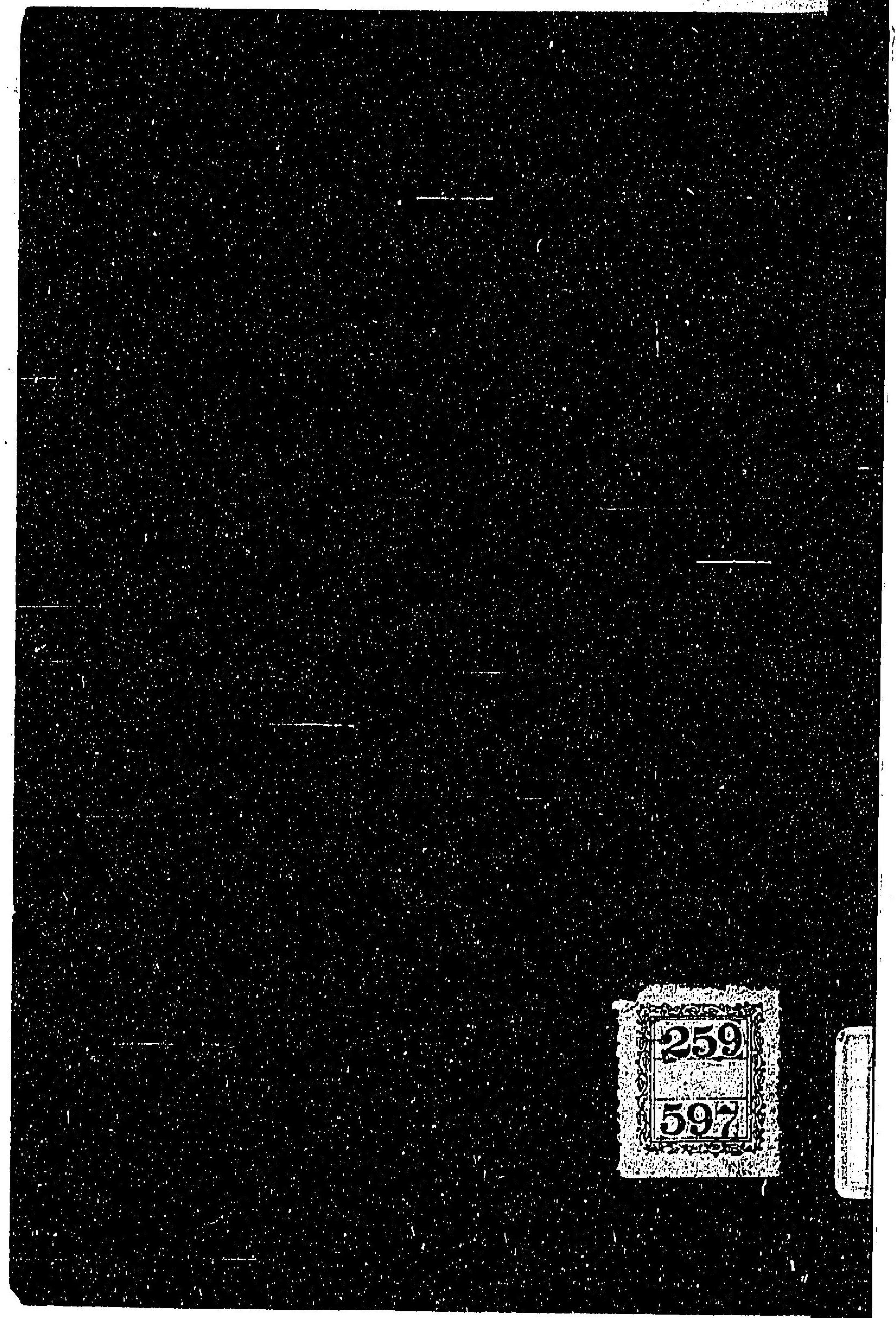
不許複製

發行所 東京市京橋區鎗屋町八番地 振替貯金東京一九〇三九番 工友社

大賣捌所 東京日本橋本銀町二丁目九番地 振替貯金東京一二五七番 大洋堂

259
597





030266-000-6

特15-53

内地台湾満韓巡査看守受験要書

山口　謙次郎／著

M42

BBA-0740

内蒙満
北疆華

必携蒙古語會話書

259
597